人民の子

朝鮮民主主義人民共和国
チュチェ107（2018）

人民の子

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ107(2018)

まえがき

　人民の子！

　これはなんらかの官職でも名誉でもない。人民を限りなく重んじ、愛し、人民に献身的に尽くす、そういう人たちだけに付けられる呼称である。

　一国の領袖を指して人民の子とたたえる時、それは領袖が人民のために自己のすべて、ひいてはわが生涯のすべてを余さずに捧げる献身的服務者の最高の亀鑑だということである。領袖は自らを人民の子だと称して人民のための献身的な服務の道を歩み、人民は領袖を父と呼んで高潔な衷情と信義を尽くしているのがまさに、領袖を中心として一つの大家庭をなした朝鮮の社会の真正な姿である。

　朝鮮の最高指導者金正恩（キムジョンウン）委員長は次のように述べている。

　「わたしは金正日（キムジョンイル）同志から委ねられた社会主義祖国と人民のためにすべてを捧げるでありましょう」

　人民が初めてまみえた委員長の姿は、指導者としての姿である前に、献身的服務者の姿であった。

　金正恩委員長は、わが金日成（キムイルソン）民族、金正日朝鮮が戴いた今一人の偉大な人民の子である。

目　次

衝　撃

朝鮮人民が金正恩委員長の存在を知ったのはいつの頃だったのであろうか。

2010年6月26日付け『労働新聞』には次のような報道が掲載されている。

「党中央委員会政治局は、チュチェ革命偉業、社会主義強盛大国建設偉業の遂行上決定的な転換が起きているわが党および革命発展の新たな要請を反映して、朝鮮労働党最高指導機関の選挙を実施するための朝鮮労働党代表者会議をチュチェ99（2010）年9月上旬に招集することを決定した。

朝鮮労働党中央委員会政治局」

朝鮮人民はもとより、世界がこれに特別な関心を向けた。

朝鮮労働党最高指導機関の選挙を実施するための党代表者会議を招集することは、今まさに朝鮮に衝撃的な慶祝すべき出来事が起きるということを予告するものであった。

当時、国の津々浦々では、今一人の不世出の偉人についての伝説のような物語がにぎやかに語られていた。

まだ若い身で、超高速艇の生産で世に知られている外

国のある技術者に超高速艇の競艇を挑んで打ち負かし相手を仰天させた話や、10代にして、すべての活動における実利の評価基準を、革命的領袖観に基づいて新たに定めたという話などが伝説さながらに語り伝えられていた。

ほかならぬその偉大な人物こそが当時、朝鮮の全人民が「尊敬する青年将軍」と呼んでたたえていた現代朝鮮の最高指導者金正恩委員長である。

いにしえから、民心は天心なりと言い伝えられている。

まさにその民心が現実となったのである。朝鮮労働党第3回代表者会議の決定を知らされた全人民の胸は大きくときめいた。

『労働新聞』2010年9月29日付けには、第3回党代表者会議において金正恩将軍が党中央軍事委員会副委員長に推戴されたニュースとその写真が掲載された。

その姿は、祖国の解放後凱旋演説を行っていた金日成主席の姿とそっくりであり、はたまた全社会の金日成主義化綱領を宣言していた時の金正日総書記の姿にも似ていて、写真に見入る人民は誰もがその相貌に魅せられたものである。

2012年1月9日付けのＡＰ通信はこう伝えている。

「驚くほどにあまりにもよく似ている。

北朝鮮の若い新しい指導者金正恩最高司令官の姿の一つひとつが金日成主席とそっくりそのままであ

第3回朝鮮労働党代表者会議で
党中央軍事委員会副委員長に推戴された
金正恩委員長(2010年9月)

る。姿形と微笑、自信満々たる足取り、はては手振りまでも。……
　金正恩指導者の姿を見ると、北朝鮮の創建者金日成主席の復活ではと思われる程である。
　金正恩指導者は外部のさまざまの憶測を一蹴して、北朝鮮の指導者としての実力を示し始めた。
　南朝鮮の一北朝鮮問題専門家が述べているように、世界的な耳目が集中している中で、金正恩指導者は金正日国防委員長が広げた強国への道を自信満々として歩んでいる。彼は次のように語った。
　『北の人民の間には、若き頃の金日成主席の微笑をたたえた姿が深く場を占めている。日本の植民地統治から民族を解放した青年将軍の微笑は、北の人民の胸中にいついつまでも残っているのだ。金正恩指導者の姿は金日成主席のそれとよく似ている。金正恩指導者が微笑をたたえると、あたかも日本帝国主義の敗亡後北を指導した30代の金日成主席を目の当たりにしているかのようである』
　ＡＰ通信の記者が昨年10月平壌の党創立記念館を訪れた際、金日成主席の肖像と写真を見たが、それらの写真に見られる俊秀な姿が不思議なほど金正恩指導者の姿形と同じであったという。
　金正恩指導者の足取りと身振り、ひいては手振りまでもが金日成主席を連想させた」

金正恩将軍が朝鮮労働党中央軍事委員会副委員長に推戴されたというニュースが流された時、あるインターネットのホームページには次のような文が掲げられた。

「北の金正恩党中央軍事委員会副委員長は、後継者として公式に登場するやたちまちにして世界的な有名人になった。……

不世出の偉人として世界の尊敬と敬慕を得ている金日成主席と現時代の最高政治元老である金正日国防委員長と生き写しの金正恩副委員長は外貌からして前世代の領袖たちを連想させ、民衆の絶対的な信頼と熱烈な歓呼を受けた。

しかし、世界が北の後継者の外貌のみを見て騒いだのでは決してない。金正恩将軍が後継者として公式に選ばれた後、北はより激動的な活力を取り戻して世界を驚かせる出来事を続けざまに引き起こした。……

北において後継システムが公式化されてから3カ月という短い期間に、世界はアメリカを思いのままに牛耳りながら政治体系の強化、国防建設、経済建設などを自在に進める北の後継者の実力を初めて知り、金正恩時代の未来を予想しうるようになった」

第3回党代表者会議以来、金正恩委員長は、党中央軍事委員会副委員長の職分で、金正日総書記の唯一の後継者として革命と建設の全般的分野にめざましい業績を積んだ。

金正日総書記は次のように述べている。

「金正恩同志が党と国家の公式の職務を担当して活動を行った期間はまだいくばくにもなりませんが、彼は既に久しい前からわれわれとともに先軍の道を歩みながら党の先軍革命指導を先頭に立って支え、その過程で革命偉業の継承者、後継者が身に付けるべき思想理論的英知と指導力、崇高な人民的風貌をいっそう確実に具備しうるようになりました」

2010年12月23日付けの『労働新聞』には、金正恩委員長が金正日総書記とともにある連合企業所を現地指導し、企業所の幹部たちと並んで撮った記念写真が掲載されている。

ところで、この写真に対する南朝鮮メディアの反響は実に大きかった。

その写真を見て彼らが特別に注目を向けたのは、背景の建物の出入り口の上に掲げてある扁額であった。

そこには「尊敬する金正恩将軍が現地指導した車の組み立て職場　チュチェ97（2008）年12月20日」という文字が記されてあった。

南朝鮮のメディアは、その文字から金正恩将軍がかなり以前から現地指導を行い、金正日国防委員長の補佐に当たっていたことが明らかになった、金正日国防委員長の現地指導に先んじて現地指導の対象を前もって確認し、手落ちなく準備するよう手配する役割を果

たしていた、これは単なる事前準備過程ではなく、後継者が対象を把握し、問題点を評価することで、指導者としての資質を見せる過程であった、と評価した。

祖国の歴史に特筆すべき激変の年とされた2009年に自らの力と技術による人工衛星「光明星2」号の打ち上げなど驚異の出来事が連続して起きたことにも、金正恩委員長の大きな労苦がこもっている。

金正恩委員長の抜きん出た指導実力は、創造と建設においても遺憾なく誇示された。

建設後70数年が経過して6万余立方メートルの泥が積もり、興南(フンナム)の大工業地域に澄んだ水を供給することが難しくなっていた2・8ビナロン連合企業所の給水沈殿池が、わずか数日にして素晴らしい養魚場さながらに生まれ変わったのも、委員長の非凡な指導力なしには想像すらできないことである。

2011年10月16日、金正日総書記が2・8ビナロン連合企業所を現地指導した際、咸境(ハムギョン)南道の幹部は給水沈殿池に積まれた泥を、2・8ビナロン連合企業所、興南肥料連合企業所、龍城(リョンソン)機械連合企業所など道内の6工場・企業の労力をもって突撃隊を組み、10月末までに汲み出すと総書記に報告した。

この時、金正恩委員長はその問題についての内容を確かめた上で、それ程の人数では咸境南道が決意した10月末までは到底やり終えることはできない、期日は

はるかに長びくはずだと考えて人民軍が引き受けて工事を1週間でやってのけようと決心し、総書記に申し出た。

これに対して総書記は、全的に同意する、人民軍が無条件責任を負って問題を解決するようにと言った。こうして給水沈殿池の泥の除去工事は人民軍部隊が引き受けることになった。

委員長は、人民軍部隊に工事を最短期間に一挙にやり遂げるよう具体的な課題およびその間に人民に些少な面倒もかけるべきでないとする指示を与えた。

委員長の精力的な指導の下に工事を開始した人民軍部隊は、咸境南道の人民にいささかの負担もかけることなく昼夜を分かたぬ突貫作業を展開して短時日のうちに泥をきれいに除去し、沈殿池を素晴らしい養魚場さながらに作り変える奇跡のような現実を生み出した。

金正日総書記は、2011年10月26日、この成果を高く評価して、金正恩党中央軍事委員会副委員長が人民軍を投入したからこそ工事を1週間という短い期間でやり遂げることができたのだ、社会の人たちの力では及びもつかないことだ、金正恩党中央軍事委員会副委員長は常にわたしの構想と意図を先頭に立って真っ先に具現しており、人民軍が真正な人民の軍隊としての本分を全うするよう導いているとたたえた。

後継者として公式に推戴される前から、いや早くも

幼少年時代から抜きん出た実力と熱い人情味、偉人的な香りをもって万人の感嘆を呼んだ委員長は、偉大な継承者として朝鮮人民の最大の信頼と支持を受けたのである。

だからこそ金正日総書記は生前、金正恩同志は誰かによって押し立てられたからではなく、自らの実力で人民の期待に背くことなく、わが党のチュチェ革命偉業、先軍革命偉業を立派に継承していくであろう、自分はこのことを確信してやまないと語っている。

このように、金正恩委員長は革命偉業継承の誉れある使命感を抱いて総書記とともに革命の嵐をついて高潔な衷情と献身性、非凡な政治的実力を持って革命と建設の諸部門を精力的に指導し、人民は委員長を仰ぎ、未来への揺るがぬ確信と歓喜に満ちていた。

金正日総書記は次のように述べている。

「金正恩同志がいることでチュチェ革命偉業の最後の勝利は確実に裏付けられており、祖国の前途は限りなく明るく洋々としています。わたしは金正恩同志がいるために、朝鮮革命の前途に対し常に気丈夫であり、革命の勝利の確信に満ちています。白頭（ペクトゥ）にて拓かれたチュチェの革命偉業は金正恩同志により輝かしく継承され、この地に先軍革命指導の歴史は永遠に引き継がれていくでありましょう」

凍てつく胸中に

2011年12月19日正午を前にして、全国各地のすべての職場や家庭では、重大放送を聴取すべく、テレビやラジオの前に集まっていた。

当時、朝鮮の全人民は金正日総書記と金正恩委員長の指導の下、勝利の確信に満ちて継続革新、継続前進をもって社会主義強国の燦然たる未来を一日も早く引き寄せるべく、歳末の取り組みを力強く繰り広げていた。

ところが正午12時、全身がそのままこわばるかのような青天の霹靂のような悲報が人々の耳朶を痛撃した。

「すべての党員と人民軍将兵ならびに人民に告げる。

わがすべての党員と人民軍将兵ならびに人民たち、

朝鮮労働党中央委員会と朝鮮労働党中央軍事委員会、朝鮮民主主義人民共和国国防委員会と最高人民会議常任委員会、内閣は、朝鮮労働党総書記であり、朝鮮民主主義人民共和国国防委員会委員長であり、朝鮮人民軍最高司令官である偉大な指導者金正日同志が、チュチェ100（2011）年12月17日8時30分、現地指導の

途上急病で逝去されたことを最も悲痛な心情をもって知らせる」
　信じようにも信じがたいこの悲報に人々は、太陽が光を失い、天が崩れ落ちたかのような悲痛な心情に沈み、激しく嗚咽した。
　全朝鮮人民の心の柱、信念の柱である父なる総書記を失った大きな喪失を前に全国が悲哀の海に沈み、人々は血涙にむせんだ。彼らの胸は空漠とし、一瞬にして凍てついた。
　ところが、人民のその空漠たる胸、凍てついた胸に温かい情を一杯に吹き込んだ偉人がいたのである。朝鮮人民の最高指導者金正恩委員長。……
　民族最大の喪失に誰よりも深い悲しみに沈んだのは、ほかならぬ金正恩委員長であった。けれども委員長は血涙にひたっていたその日々、故人があれ程愛してやまなかった人民を先に考えた。
　民族的大喪失の日として記録されたその12月17日。
　この日、党中央委員会政治局員たちを集めた委員長は、金正日総書記が現地指導に向かっていた野戦列車の中で殉職したという青天の霹靂の如き悲報を伝えた。室内はたちまち嗚咽の場と化した。
　あまりのことに気を呑まれ肩を震わせて涙に暮れる一同の嗚咽に、委員長の胸は悲痛に震えた。
　けれども委員長はこみ上げる涙を無理に抑え、金正日

同志があれ程重んじ愛して止まなかったわが人民、金正日同志から委ねられた人民をあくまでも責任を持って立派に見守ろうと語った。
　名状し難い喪失の痛みに耐えかねていた悲哀の瞬間にすら人民のことを先に考え、熱く胸に抱くその火の如き人民愛に、一同は肩を震わせしゃくり上げた。
　彼らは、この日のその慈しみに満ちた姿から金正恩委員長こそは朝鮮人民と血縁の情を結んだ今一人の不世出の偉人、人民の子であるという強い衝動を覚えた。
　大きな喪失の中で1日が過ぎて迎えた12月18日、党中央委員会はなんとも処理し難い問題に遭遇した。
　金正日総書記が生涯の最後の日を前にした12月16日夕刻に取った処置により捕獲された魚類が東海岸の一漁港に到着したのだったが、民族の大喪失でどの誰よりも大きく心を痛めている委員長に報告したものかどうかとのためらいが生じたのである。けれどもその魚類についての事情があまりにも熱くて、どうしても委員長の裁決を仰ぐほかなかった。
　新年を迎えて首都の市民に供すべきだとし、スケソウダラとニシンを用意することにしようとはからった総書記は、逝去を1日前にした12月16日夕、平壌の市民たちにスケソウダラとニシンを供

給すべきだとして文書に署名した。それが総書記の最後の署名文書になろうとは、どの誰が予知しえたであろうか。涙無くしては思い返すことのできない話であった。

報告を受けた委員長は、金正日同志の意向による、千億金をもってしても比較しようのない愛の魚類を人民に一日も早く行き届かせるべきだとして、特別列車をもって平壌まで集中輸送を行うよう指示した。

12月17日、総書記の逝去当日には次のような出来事もあった。

朝鮮人民軍創作社の責任幹部は、上級党の責任幹部から総書記の太陽像をすぐに届けるようにという指示を受けた。緊急な指示であったことからして、金正恩委員長の意向によるものだろうと彼は考えた。実際既に、太陽像を最上のレベルで形象、完成したことを委員長には報告されていたのである。

準備を急ぎながらも彼は、総書記の太陽像が世に生み出されるまでの経緯を思い浮かべて胸を熱くした。

実は委員長が人民軍創作社に総書記の太陽像を形象するよう指示したのはかなり以前のことであった。

委員長は後日、わたしは金正日同志の太陽像を形象、完成すべくいろいろと考えた、以前金正日同志は、金日成同志の太陽像は御自身が写真を選

んで形象、完成するようはかったとし、その太陽像を金日成同志の生存時に完成できていたらどんなにかよかっただろうかとおっしゃられた、それでわたしは、金正日同志の生存時にその太陽像を形象すべく決心し、この作業をじかに手配し、指導したと語っている。

最上のレベルで形象、完成した太陽像を遂に委員長に御覧に入れることになったとして、彼は胸を膨ませた。やがて指定の場所に到着し、ある部屋に太陽像の荷をほどいた。

待つ程もなく、金正恩委員長が数人の幹部を従えて部屋へ入ってきた。思った通りだと胸をはずませながらその前へ一歩進み出た彼はおやっと思った。委員長の顔色が曇っていた。随行者たちの面持ちも沈痛であった。

委員長は彼の手を取り、真っすぐ太陽像の前に近づいた。太陽像を敬虔な面持ちで見つめながら静かな口調で責任幹部たちと話を交わした委員長は彼に向き直り、あなたはすぐにわたしの指示を実行しなさい、今直ちに金正日同志の太陽像を万寿台（マンスデ）創作社へ運んで行くのだと言った。

実はその日、金正恩委員長は錦繍山（クムスサン）記念宮殿（当時）にて、党中央委員会政治局員たちにこう語っていた。

「金正日同志の追慕を行う国家葬儀行事の際、金正日同志の太陽像肖像を奉戴しなければなりません。金正日同志の太陽像肖像は、わたしが金正日同志の誕生70周年の行事に捧げるべく人民軍創作社に課題を与えて形象した肖像を用いればよいでしょう」

金正日総書記逝去の悲報に凍てつくであろう人民の胸中に、総書記のにこやかな影像を描き見せようというのが委員長の心積もりであった。

この日、委員長は政治局員たちに、「われわれは心の柱と頼み従っていた民族の偉大な慈父金正日同志がお亡くなりになって悲痛やるかたありませんが、決して気力をなくしてへたばるようなことがあってはなりません」と切々と語った。

委員長は、金正日総書記を限りなく慕いあこがれる人民の心情をおもんぱかり、総書記の太陽像を市内の処々に設けられた野外弔意式場に掲げるようはからった。その上で12月20日には、金日成広場など首都の野外弔意式場に太陽像を掲げた状況を現地で確かめた。

委員長は、12月23日、幹部たちに向かって、各級党組織および活動家たちは、机の前に座ったままで寒い冬の夜の人民のことを心配するだけでなく、日別、時間別に交替で現地におもむいて、人民を慰労し、彼らと悲しみを分かち、困難な時期を克服していくべき

だという内容、各級党組織および活動家は、寒い冬の夜、人々が寒中に震えていることを知ったら金正日同志がどんなにか胸を痛めるだろうと思いを致して、人民の便宜を最優先し、絶対的に実行するようにとの内容をこめた直筆の指示を送った。

この日委員長は、野外弔意式場を訪れる人たちや通夜に立つ人たちが帽子やスカーフ、手袋、耳覆いなどを着用するようはからい、彼らが寒い日に不便な思いをしたり、霜焼けにかかるようなことが絶対にないようにとして具体的な指示を行った。

これにとどまらず、12月24日には通夜に立つ人たちの身体を温める上に必要な数万個の発熱テープを贈り、翌日は、寒い冬の日に白湯を提供するよりも湯に砂糖を溶かして与える方が良かろうとして、市内の弔意式場に砂糖、蜂蜜、粉乳、パン、菓子など多くの食品を贈り、さらに弔意式場を訪れる人や通夜に立つ人たちが霜焼けにかかったり風邪を引いたりしないよう医療サービス対策を立てることだとして具体的な措置を講じもした。

それに12月26日には、首都の市民たちが葬儀の喪主の立場で入浴も理髪も控えているということを知り、大衆浴場や理髪所などの便益サービス網を普段と同様に運営して市民の利用に供する措置を講じた。27日には、野外弔意式場で通夜に立っている人

たちや関係部門の人たちに数千対の耳覆いを贈り、またもや大量の砂糖をも贈って、湯に溶いて弔意式場を訪れる人や通夜に立つ人たちに提供するよう温かい配慮をめぐらした。

12月28日、朝鮮民族が生んだ不世出の大聖人金正日総書記と永別する悲痛極まりない日を迎えた。

この日、老人も女性も青年学生も子どもも胸をかきむしって悲しみもだえた。

ところがこの日も、金正恩委員長はどの誰よりも悲痛な思いに捉われながらも、くずおれる人民、胸をかきむしる人民を先に思い、またもや愛の措置を講じた。

委員長は式後、永訣行事のさなかに発生した患者たちを至急中央病院その他の病院に入院させて集中治療を受けるよう措置を講じた。そして、悲しみに耐え切れずショック死した人に対しては、幹部たちが家庭を訪問して、葬儀の準備や生活上持ち上がった問題の解決にあたるようにとの恩情こもる指示を行った。

このように、哀悼の日々毎日のように届く委員長の熱い愛と情はそのまま人民の胸に新たな力と勇気を奮い起こし、彼らは血涙の中で気力をなくして倒れたのではなく一段と強い人民として立ち上がったのである。

永訣式の2日後、朝鮮人民は金正恩委員長を朝鮮人民軍最高司令官に高く戴く大いなる栄光に浴した。
これは金正日総書記の生前の遺訓であり、全朝鮮人民の切実な念願によるものであった。

以民為天に基づく人民観

金正恩委員長が持つ人民観の基礎には、金日成主席と金正日総書記が畢生の座右の銘としていた以民為天の思想が置かれている。
金正恩委員長は次のように述べている。
「以民為天を座右の銘とした金日成同志と金正日同志の気高い志を体して、人民を天のようにみなしてこの上なく尊重し、押し立て、人民の要求と利益を第一としてすべての活動を進めなければなりません」
金正日総書記は、以民為天は金日成同志の座右の銘でありわたしの座右の銘であると同時に、金正恩同志の座右の銘であると指摘している。
2015年10月10日、朝鮮労働党創立70周年慶祝広場の幹部壇に立った金正恩委員長は、わが党は史上初めて人民愛の政治を施し、終生人民のためにすべてを捧げた金日成同志と金正日同志の高貴な志を体して、今日も明日も、永遠に人民大衆第一主義の聖な

る歴史をつづっていくであろうと宣言した。
委員長が抱いている偉大な人民観、人民哲学は、金日成主席と金正日総書記への極みのない忠誠心、祖国と人民の運命に対する気高い使命感を原点としている。
2011年12月31日、朝鮮人民が天の如く信じ従っていた民族の父金正日総書記を思いもかけずに失い、総書記のいない新年を迎えて悲哀に暮れていたこの日、委員長は人民軍の指揮メンバーと座を共にしていた。
人民軍の指揮メンバーたちは、民族の大喪失後10日余りの間にあまりにもげっそりと痩せた委員長の姿に胸がつまり、涙ながらにいさめた。
「最高司令官同志、そんなにもお体を酷使してはどうなさいます。最高司令官同志お一人だけを頼りにして生きる人民のことを思っても健康に留意なさらなければなりません」
「是非ともお願いします。休息も違えずに行い、御食事も三度欠かさずにお取りになって下さい」
そういう彼らを見回して委員長は、みなさんがわたしの健康を気遣って、睡眠を規則正しく取り、食事も欠かさず行うよう強く勧めてくれて感謝します、わたしは若いのだから幾晩か休まずに働いても大丈夫です、と欣然として答えた。そして、金正日同志は生涯祖国と人民のために労苦という労苦を重ね、毎日深夜の3時、4時

まで執務し、この国の最初の朝を他に先駆けて迎えたものでしたとして、総書記の生前の労苦を感慨深くしのんだ。

委員長は、自分は今になり党と国家、軍の仕事をすべて担当してみると、金正日同志がどうして生前、一日一時もゆっくり休まずに超強度の行軍を倦まずたゆまず続けたのかということを、いっそう胸熱く感じるようになりました、金正日同志から委ねられた祖国と人民の運命がわたしの双肩にかかっていると思うとどんなに働いても満足がゆかず、1日が24時間にしかならないのが本当に残念ですと、切なげに語った。

続けて委員長は、わたしは一生金正日同志の革命方式、生活方式に倣い、今後金正日同志に代わってわたしが朝鮮の最初の朝の門を開きます、と宣言するかのように力をこめて言った。

ある年の春の日も昼夜を分かたぬ献身を続けていた委員長は、幹部たちはわたしが夜っぴて執務していることを心配してくれているが、それは構いません、わたしはいつもどうすれば経済問題と人民の生活問題を解決できるだろうかということばかり考えています、人民のために真情の限りを尽くしているのですとして、その気持ちをこう語った。

われわれはみな人民の子である。われわれは人民の子として、人民のために全力を尽くして働かなけ

ればならない。われわれはこの地に生を享けた人民の子にふさわしく今日のこの困難に打ち勝ち、一日も早くわが国の経済と人民の生活を盛り立てて、必ずやわが国、わが祖国を人民の暮らし良い、すべてが興隆する社会主義強盛国家として建設しなければならない。朝鮮人民は今は苦労をしているが、やがて今日を昔語りとして追憶しながら豊かに暮らす日は必ず来るであろう。……

つとに金正日総書記は、偉大な思想は偉大な時代を生むという、哲学的名言を残している。

最も優れた人民

金正日総書記は次のように述べている。

「金正恩同志は、朝鮮革命が最大の困境にあった苦難の行軍期に人民がなめていた苦しみをともに味わい、人生体験も多く積みました。彼は人民とともに苦難と試練を克服しながら革命の同志と人民に対する信頼、チュチェ革命偉業の正当性への確信をいっそう強く固め、革命家にとっては愛よりもはるかに偉大で大切な、力強いものは信頼であるという哲理を胸中深く刻み付けました。恐らく金正恩同志は、苦難の行軍時代をいつまでも忘れないことでしょう」

朝鮮人民に対する金正恩委員長の信頼は何よりも、朝鮮人民が金日成主席によって慈しみ育てられ、押し立てられ、愛された偉大な金日成民族、金正日朝鮮の人民であるという信頼、ほかには生きようのない領袖の人民だという絶対的な確信である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「わたしはあくまでも広範な人民大衆、金日成同志と金正日同志により育てられ、押し立てられ、愛された、世界で最も優れたわが人民に依拠して革命を行おうと決心しています」

委員長は2011年12月のある日、次のようにも語っている。

金正日同志が常日頃話していたことだが、朝鮮人民は実に立派な人民だ。ほかならぬ金正日同志が朝鮮人民を世界最良の人民に育て上げたのだ。幹部たちは世界最良の朝鮮人民のために、足の底がすり減る程駆け回らなければならない。人民への献身的奉仕精神を持って人民のためにもっと多くのことをなすべきである。……

委員長はその数日後の12月28日に挙行された永訣式を通して、朝鮮人民への信頼をいっそう強く固めた。

委員長はこの日の感動的な有様を目にして、平壌市民が金正日同志への熱い慕情を抱いて永訣行事に参加した、金正日同志を慕う市民の姿はどこにあっても常に一様であり、かれらの思想・精神状態は優れてい

る、と信頼の意を述べた。

その後の2012年2月19日、委員長はその日のことを振り返り、首都の40余キロの沿道に繰り広げられた絵巻は世界のどの地においても見られなかった、そのような絵巻はいかなる人物も演出しようにもできず、再現もできないだろう、哀悼期間朝鮮人民は父のように信じ、慕ってやまなかった金正日同志を失い、悲痛のあまり血涙にむせんだ、金正日同志への切々たる慕情を抱いて、寒風のすさぶ冷たい天気も気に掛けず、金正日同志の太陽像の前で通夜に立った、哀悼期間を通してわれわれは、金正日同志がなんと偉大な方であり、朝鮮人民が金正日同志をどれ程純潔な良心を持って慕い従ったかをいっそうはっきりと知ることができた、このような人民を育てたのはほかならぬ金正日同志である、まさに偉大な領袖が偉大な人民を育てたのだ、わたしは何人かの幹部に依拠して革命を進めようなどとは思っていない、わたしは必ず広範な人民大衆、金日成同志と金正日同志が育てて押し立て、愛した、この世で最も優れた朝鮮人民に依拠して革命を行う、と語った。

ほかならぬこの指摘こそ、委員長が抱いている人民への信頼であり、信条であり、意志である。

2012年5月1日、金正恩委員長がある工場の強盛院を訪れた時のこと。かつては人間の住めない土地だ

と言われていた北辺の山間の僻地に雄壮華麗に建てられた総合的なサービス施設で、都市の住民たちさえ羨む程に開けた文化情緒生活を存分に楽しんでいる当地労働者たちの姿を見た委員長は、金正日同志が御覧になったらどんなにお喜びになるだろうかと、感慨深げに語った。

生前当地の労働者たちを愛して止まなかった金正日総書記の気高い志に沿ってこの素晴らしい強盛院の建設を指導した委員長は、自分はここを訪れるたびに自ずと金正日同志がしのばれる、金正日同志が力をこめて育て、残していかれたわが労働者たちなのだから、この工場の労働者たちのためなら工場構内に花の絨毯を敷いてあげたいのが自分の偽りのない心情だと話した。

2015年7月19日、金鐘泰（キムジョンテ）電気機関車連合企業所を訪れた委員長は、われわれは人民の生活を豊かにし、人民が不自由なく鉄道を利用しうるようにして、金日成同志と金正日同志に尽くせなかった衷情を、わが人民に捧げなくては、と語った。

鉄道現代化の遠大な構想を練っていた委員長は、幹部たちに「**わが国の労働者階級を先進的な労働者階級だと言うよりは、英雄的な金日成・金正日労働者階級だとするのが正確です**」と語り、自分は鉄道部門の労働者をはじめとする全国の労働者たちが国の鉄道を現代化する壮大な取り組みで英雄的金日成・金正日労働

者階級の革命的気象を今一度誇示するであろうと確信していると力をこめて語った。

委員長は青年に対しても、主席と総書記と変わりのない青年猛者たちだとして押し立てている。

2012年8月30日、新たなチュチェ100年代の最初の青年節を慶祝する行事場には、金正恩委員長が慶祝行事代表たちと並んで記念撮影を行うためにやって来るという感激的な知らせが伝えられた。

実はあの時、行事に参加した青年代表たちは、敵の無謀な侵略戦争演習で国に生じた厳しい情勢に備えて、遠い前線に出向いている委員長を心に描き見ながらも、行事場に迎えることなどは夢にも思っていなかったし、実際行事当日も委員長は姿を見せなかった。

ところが前日までも前線に出向いていた委員長が重なる疲れを癒さず、慶祝行事代表たちと一緒に記念撮影を行うべく駆け付けてきたのである。

感激の涙で頬を濡らしながら栄光の歓呼を上げる頼もしい代表たちと一緒に記念写真を撮り休憩室に入った委員長は、幹部たちを見回して、わが国の青年は実に優秀な青年だ、わが青年たちはいかなる雑思想にも染まらず、ひたすらわが党のみに固い信頼を寄せ従っている、わが青年たちは政治的･思想的風貌がとりわけ優れているばかりでなく、組織力と戦闘力、団結力があると語った。

青年デー慶祝行事の代表たちと
記念撮影をするために足を運んだ
金正恩委員長（2012年8月）

金日成社会主義青年同盟第9回大会で
金日成・金正日主義青年同盟旗を授ける
金正恩委員長(2016年8月)

何度も「わが青年たち」と情をこめて呼び、大いなる愛と信頼を重ねて寄せた委員長は、高ぶった口調で語を継いだ。

「このように立派な青年たちを金日成同志と金正日同志が育てて下さったのです。金日成同志と金正日同志のお陰でわれわれは立派な青年の大部隊を擁することができたのです。立派な青年の大部隊を擁しているのは、いかなる核兵器にも劣らぬわれわれの偉力であり、矜持であり、大きな誇りです」

委員長は、2016年8月、金日成社会主義青年同盟第9回大会に臨席し、金日成・金正日主義青年同盟旗を手ずから授与し、朝鮮青年運動の強化発展をはかる不滅の大綱を明示し、大会参加者とともに記念撮影を行った。

委員長は青年組織の名称も主席と総書記の名をともに付して、金日成・金正日主義青年同盟と称するよう大きな信頼を寄せた。

金正恩委員長が朝鮮労働党創立70周年慶祝閲兵式および平壌市大衆示威行進で行った演説には、その最初から最後まで人民という表現が非常に多くこめられている。

この時の委員長の言葉を今一度振り返ってみよう。

「わが党が70年の長きにわたり、いかなる狂風にも微動だにせず勝利と栄光のみをしるし、革命を前進さ

せることができたのは、わが党を運命のすべてとして確信して従い、党の偉業を忠実に奉じてきた偉大な人民がいたからです。

わが党の歴史はすなわち人民が歩んできた道であり、わが党の力はすなわち人民の力であり、わが党の偉大さはすなわち人民の偉大さであり、わが党が収めた勝利はわが人民の勝利です」

「歴史の突風の中でわが党が信頼したのは、ただ偉大な人民だけであり、人民は朝鮮労働党のまたとない支持者、助言者、援助者であります」

「わが党は、心から党に従う人民の心を革命の第一の財産として大切にし、勇敢で英知に富んだ美しいわが人民のために重荷を担い、茨の道もかき分けて未来のあらゆる輝かしいものすべてを先取りするでしょう」

「朝鮮革命は天が与える神秘な力によってではなく、ひたすら党を慕い、擁護する英雄的な金日成・金正日労働者階級をはじめとするわが人民の偉大な力に支えられて前進します」

「すべての党員の同志たちに訴えます。

ともに偉大な人民のために滅私奉仕しましょう！

不敗の党、朝鮮労働党のまわりに一心団結した偉大な朝鮮人民万歳！」

2015年1月28日、金正恩委員長は幹部たちに、朝鮮

朝鮮労働党創立70周年慶祝閲兵式および
平壌市大衆示威行進で演説を行う
金正恩委員長（2015年10月）

人民はこれまで敵と対峙している困難な状況の中で緊張した闘争を繰り広げ、社会主義の建設に邁進し、一日として豊かな生活を心ゆくまで満喫することができなかった、生活に苦しみながらもわが党をひたすら信じ、従い、金日成同志と金正日同志に純潔な道義を尽くしているこの優れたわが人民に豊かな生活を楽しませることができずにいると思うと眠るにも眠れないとし、わたしはたとえ小さくはあっても人民が困っている問題を解き、多くはなくても人民になんらかのものを提供できたという報告を聞いた時ほど嬉しい時はない、われわれは党にすべてを託して党とともにあらゆる試練や困難を乗り越えてきた人民に、一日も早く世に羨むことのない豊かで幸せな生活をもたらさなければならない、と強調した。

激動的な出来事で彩られた2015年も押し詰まった12月19日、ある道党委員会の責任幹部に会った際、委員長は「**幹部たちが人民に対する観点を正確に抱くようにしなければなりません。朝鮮人民はひたすらわが党のみを信じて従い、党と運命をともにしているこの世にまたとない優れた人民です**」と語った。

朝鮮人民を世界で最も立派な人民、偉大な人民だとする委員長の破格の呼称には、偉大な領袖、偉大な党が生んだ偉大な人民にふさわしく、この世で最も尊厳ある幸せな人民、剛勇な人民になるようにと期待する

委員長の天にもまがう信頼もこもっている。

委員長は、2012年7月13日、党中央委員会の責任幹部たちに、わが党はこれまで他人に頼って革命を行ってきたのではなく、わが人民に信を置き、わが人民の精神力に依拠して革命と建設を勝利へ導いてきたとして、こう続けた。

「われわれは今後も朝鮮人民の力を信じ、それに依拠してすべての難関を乗り越えていかなければなりません」

人民に対する絶対的な信頼、これは即信念である。

ほかならぬ人民に対する信頼を最上のレベルで維持しているからこそ、いつだったか委員長は、わたしは世界に向かって朝鮮人民は最も偉大な人民であることを誇りたいと思います、わたしはこんなに立派な人民と一緒に革命を行っていることを誇りにしています、わたしはこんなに優れた人民のために、燃える川も躊躇せずに渡り、険しいいばらの道も笑って突き進んで行く人民の守護者、人民の真の服務者になるつもりです、と激情に駆られて語ったのである。

信頼にはそれに報いるのが本然である。

人民に対する委員長のその大きな信念、絶対的な信頼は、朝鮮人民をして世人を驚嘆させる神秘な程の奇跡を生み出させ、この地に日毎夜毎衷情と偉勲を現出させている。

わたしの祖父、父親として

祖国解放戦争勝利59周年を数日後に控えた2012年7月21日、金正恩委員長は幹部たちにこう語った。

「わたしは参戦老兵を道義的にだけでなく、人間的にわたしの祖父、父親と考えて尊敬し、大事にしています」

参戦老兵に対する委員長の骨肉にもまがう情は、年々戦勝節（7月27日）を迎えては全国の参戦老兵を親しく招き、可能な限りの愛を注ぐことにはっきりと現れている。

2012年7月、胸に勲章をきらめかせながら平壌に集まった参戦老兵たちの姿は、朝鮮の人民と青少年たちに消し難い深い余韻を残した。

委員長は、戦勝節慶祝行事の参加者たちが元帥服を着用して戦勝広場の幹部壇上に立つ金日成主席の貴い映像を入れた代表証を持って行事に参加するようにし、華やかな花火夜会の観覧も行い、老兵代表たちと一緒に記念写真も撮った。

委員長が陽光のような微笑をたたえて老兵代表たちの前へ現れ、熱狂的な「万歳！」の歓呼を上げる老兵代表たちの手を温かく取る光景に感動して、老兵たちは一様に熱い涙で頬を濡らした。

人生の大いなる栄光に浴した老兵代表たちの胸は限りなくそよいだ。

委員長はその貴重な時間を割いて、参戦老兵代表たちを招き、モランボン楽団の慶祝公演を観覧した。

花火が打ち上げられる中で響き渡る『決戦の道』、『進軍また進軍』などの戦時歌謡、背景の画面に映し出された戦勝閲兵式広場の幹部壇に立つ敬慕する主席の映像、主席の肉声録音を耳にしながら老兵代表たちは、砲煙弾雨の中で戦った苛烈な戦闘の日々や戦勝の広場で金日成主席を仰いで声を限りに万歳を叫んだ忘れ得ぬあの日の感激を噛みしめながら、こみ上げる涙にむせんだ。

第2回全国老兵大会に参加した代表たちに会う
金正恩委員長(2012年7月)

委員長はそればかりでなく、誕生日を迎えた老兵代表たちに誕生祝いの膳を整え、老兵たちに子孫代々伝えられる恩情をこめた贈り物もした。

また、彼らが出発する日の空模様を気遣い、日程を1日延ばして送り返し、歓送も大々的に行う措置を取り、行事を最後まで手落ちなく手配する温かい配慮をめぐらした。

委員長は、今回わたしが祖国解放戦争勝利59周年を迎えて参戦老兵代表を平壌に招き、彼らと一緒に記念写真を撮り、モランボン楽団の公演もともに観覧したがみんなに喜ばれた、彼らの喜ぶ様子を見て、わたしもどんなに嬉しかったか知れなかったと語った。

委員長は身をもって参戦老兵たちを尊重する範を垂れ、その上で社会全般に彼らを尊敬し優遇する気風を確立するよう導いた。

委員長は、わが党が戦勝節を大きく祝う目的の一つが、ほかならぬ革命の先輩を尊重する気風の確立にある、参戦老兵は祖国解放戦争でわが国を血潮をもって守り戦った英雄戦士たちであり、革命の先輩である、参戦老兵たちは戦場でも勲功を立て、戦後の復興建設期にもそれぞれの持ち場で金日成同志を押し立てる上の騎手になり、多くの功労を立てたと語った。

2013年の祖国解放戦争勝利60周年慶祝行事の際も参

戦老兵を招いて大海の如き情愛を注ぎ、戦勝62周年を迎えた2015年には、第4回全国老兵大会を開催するようはからった。大会場に臨席して愛と情に満ちた祝賀演説を行った委員長の慈愛に満ちた姿は、参戦老兵の胸に永遠に焼き付かれる影像として刻まれた。

昨日のない今日はなく、今日のない明日はありえないとして、われわれの参戦老兵は英雄朝鮮の強大さと勝利の歴史を体現した生き証人であり、金日成同志と金正日同志の名とともに呼ばれる時代を代表している、金銀宝貨とも比べようのない国の貴重な宝である、戦争老兵は、青春も生命も惜しみなく捧げて、党と革命、祖国と人民を決死の覚悟で守った民族の誇るべき英雄たちであり、真の愛国者であると温かく語る委員長を仰いで、参戦老兵たちは感激の涙で頬を濡らした。

愛のねぐら

金正恩委員長が人民にめぐらす骨肉の情、熱い親身の情は、国の平凡な老人を革命の先輩、長上として尊敬し、温かいねぐらを用意して与えていることにも現れている。

老年者の愛のねぐら平壌(ピョンヤン)養老院！

身寄りのない老人をわが親のように面倒を見る美風

が普遍化している社会、老人たちの健康と生活を国が全的に責任を負って世話を焼き、老人を尊敬し、優遇するのが全人民的な感情、一つの社会的風潮となっているこの地に、老年者のための愛のねぐら平壌養老院が驚く程立派に建てられ、人々を驚嘆させている。

2014年6月24日、平壌育児院と平壌愛育（ミリム）院の建設場を視察していた委員長は、自分は平壌美林学院と養老院を立派に建設して、両親のいないみなしごや身寄りのない老人たちが心置きなく生活できるようにするつもりでいる、彼らの面倒を良く見ることを全社会的な気風、全国大家庭の気風とならせることだと強調した。

平壌養老院の建設を発意した委員長は、その設計と資材の確保対策に至るまで建設に必要なすべての措置を講じた。

委員長の命令を受けた軍人建設者たちは、酷寒にもめげず突貫工事に取り組んで僅か40数日にして建物の基礎築造と骨組み工事を終えて内部の壁塗りに取り組んだ。

翌年3月、全国が楽しく迎えて過ごす民俗祝日の正月大ポルム（陰暦1月15日）に平壌市養老院（当時）の建設場を訪れた委員長は、建設の開始命令を下して時日があまり経っていないにもかかわらず、早くも養老院の姿態はほぼ出来上がったとして、満足の意を表した。

この日の委員長の言葉は、全国の老人、いや全人民の胸を大きく揺さぶった。

―平壌市養老院の保養生たちがなんらの心配もなく幸せに暮らせるよう、標準としてしつらえて、各地方においてもここをモデルにして養老院を立派に建設するようにしよう。

―全国すべての養老院を保養生たちが余生を楽しく過ごすねぐらとして手落ちなく建設し、彼らが党と国家、全社会的な関心と配慮の中で革命の先輩、長上として尊敬と愛を受けながら人生の老年期に価値ある生を花咲かせるようにすべきである。

自己の姿態をほぼ現した養老院の全景を明るい微笑をたたえて眺める委員長のこの日の姿は、1948年5月、建国の草分けの道を歩むあの多忙を極めたさなかに、当時の勝湖(スンホ)郡万達(マンダル)里に位置している養老院を訪れて、老人たちが使用している寝具や食器に至る生活の隅々にまで細心の配慮を行い、国がお年寄りのみなさんの面倒を十分に見ますと語った金日成主席の姿とそっくりそのままであった。

2015年8月1日、平壌養老院を訪れた委員長は、風致秀麗な大同(テドン)江のほとりに入り母屋づくりの朝鮮式建築物として建てられた養老院の全景に見入り、全く立派なものだと言ってとても喜んだ。

委員長が竣工なった平壌養老院を視察して何にもまして満足したのは、養老院の要所要所がすべて保養生たちの身体的ならびに年齢心理的特性にふさわしく立

派に整えられていることであった。
　保養生の好みを考慮して、オンドル寝室とベッド寝室を適切に配し、食事室も家庭的な雰囲気にひたれるよう工夫して造成され、また保養生たちの食欲をそそるに足る程の作業を楽しめるよう水耕温室や菜園まで設けられた平壌養老院。
　委員長が竣工なった平壌養老院を視察してまた喜んだのは、養老院が平壌育児院、愛育院と並べて上々の位置に建てられていることであった。
　委員長は養老院をそこに建てることで、両親のいない院児たちにはおじいさん、おばあさんの優しい情を与え、身寄りのない老人たちには可愛い孫たちの明るい姿を抱かせて年寄りたちが余生を若々しく送れるよう配慮したのである。
　平凡な老人たちを革命の先輩、長上として重んじ、この世の何物とも比べようのない熱い情を注ぎ、世の人の誰もが羨むよう、栄光と幸福の絶頂に押し上げられた平壌養老院の保養生だけでなく、全国の人民は謹んで委員長に感謝の最敬礼を送った。

平壌養老院を訪れた金正恩委員長
（2015年8月）

未来を愛せよ

子どもたちに対する金正恩委員長の骨肉の愛と親身の情は、委員長が抱いている次世代観の気高い発現である。

金正日総書記は次のように述べている。

「金正恩同志は子どもたちや学生少年たちを特別に可愛がり愛しています。これはその気高い次世代観の発現であり、天稟でもあります」

子どもたちに対する委員長の熱い骨肉の情は、未来を愛し、未来を育むことを革命家が抱くべき次世代観、革命観として定立していることに集中的に表現されている。

2015年11月30日、新たに改築された万景台（マンギョンデ）学生少年宮殿を視察した際、委員長はこう述べている。

「われわれは金日成同志と金正日同志の気高い次世代観、革命観を代を継いで支えていかなければなりません。未来を愛し、未来を育むことは、われわれ革命家の抱くべき次世代観、革命観です」

つとに金日成主席は、未来を愛することのない革命、未来を作りもせず、おもんぱかりもしない革命は将来性のない革命だ、そのような革命が何か金色に輝く理

想を成就するであろうと期待するならば、それはばかげたことだと教えている。

いつだったか金正恩委員長は、わが国の子どもたちに対する主席と総書記の無限の愛と献身について深く思いを至し、子どもたちへの自分の愛はつまり金日成同志と金正日同志の次世代観をそのままに受け継いだものだ、われわれが代を継いでチュチェの革命偉業を継承完成していくためには、次世代を慈しみ愛し、革命の交替者、継承者として力強く育て上げなければならないと語った。

2012年1月24日、委員長は民族の父を亡くしどの誰よりも喪失の痛みが大きかったにもかかわらず、旧正月元旦を迎えて真っ先に万景台革命学院を訪れた。

祝日を迎えて訪問すべき対象は多かったが、金正日同志に痛く思いを馳せている学院の院児たちのことを思い、万景台革命学院から先に訪ねてきた、今年の旧正月は金正日同志を失って最初に迎える祝日だから、わたしが学院の院児たちの親になって祝日を一緒に過ごすべきであって、どの誰が代わって一緒に過ごせようか、と語る委員長の言葉は、万景台革命学院全院児の胸に熱く刻まれた。

父なる委員長を迎えた喜びで手がこごえることもいとわず熱狂的に拍手する院児たち、彼ら一人ひとりの手を強く握りしめるその優しい手、両の頬を伝って流れ落

万景台革命学院を訪れた金正恩委員長
（2012年1月）

ちる涙を拭い、こごえた頬をさすって、泣かずに写真を撮ろう、泣いていたら写真がうまく撮れないよと言うその多情な声は、院児たちの胸を春の日でもあるかのように温めた。

院児たちの食事の模様も眺めて、どれがおいしいのかねと尋ねては、醤油の味も見る慈しみ深い姿に、院児たちは、生みの親の情、この世の最も熱い情を胸一杯に実感した。

革命の未来を何よりも愛している委員長のこの熱い骨肉の情により、万景台革命学院の院児たちは、以前にも増して特別に改築された愛の巣で骨肉の情を毎日のように胸熱く感じて、白頭の伝統を揺るぎなく継承

していく革命の頼もしい骨幹として力強く育っているのである。

このことについて在米朝鮮人のインターネット新聞『民族通信』は「2月の春は永遠である」という記事でこう書いている。

「万景台革命学院を訪れて、涙を流す院児たちを胸に抱き、一緒に記念撮影を行う姿や、食堂に入り院児たちに質問をし、事細かな配慮をめぐらし、頭をなでる場面をテレビを通して見る時、あの姿はあたかもわが子たちに愛を注ぐ父母の様子を彷彿させた。

海外在住同胞すべてが感動した。

彼らは『金正恩指導者は金正日国防委員長のように涙もろく、人情も深い』『実に親しみ深く、謙虚で善良だ』『若いお方なのにどうしてあんなにも優しく、慈しみ深く、親しみに満ちているのだろうか』と感嘆してやまなかった。

先代最高指導者たちの革命活動史のみならず、愛の歴史もそのまま北の社会全体に流れ、北の同胞全体に最高指導者への敬慕、尊敬の念が熔鉱炉のように熱くあふれ流れる事実をはっきりと知ることができた」

金正恩委員長は旧正月を迎えた万景台革命学院の院児たちに熱い愛と恩情を注いだ後、倉田（チャンジョン）小学校、中央動物園、凱旋（ケソン）青年公園遊戯場を休むことなく見て歩き、青少年たちをこよなく愛する足跡を残した。委員長から贈

られた愛の遊戯器材を受け取った慶上(キョンサン)幼稚園の園児をはじめ国の津々浦々で上げる歌声、笑い声は限りなく響き渡った。

2012年6月3日から8日まで、朝鮮少年団創立66周年慶祝行事が盛大に挙行された。

委員長は国事に忙殺されながらも、朝鮮少年団創立節を朝鮮労働党と祖国の歴史に特筆すべき大慶事、前例のない盛大な祝典として慶祝することを発意し、恩情あふれる措置を講じた。

この世界に国は多いが、2万余名もの平凡な勤労者の子女を首都に呼び、何日もの間多彩な慶祝イベントや見学を手配した党や国は存在しない。

実際、成人でもない、保護者の手を常時必要とするその数知れぬ大勢の子どもたちを首都に呼び集めて慶祝行事を催すのは言う程に易しいことではなかった。しかし子どもたちを国の王様とみなし、子どもたちのためにすべてを服従させるべきだとする明確な観点を抱いているがゆえに委員長は、かくも盛大な慶祝行事もためらいなく執り行うようはからったのである。

山間の僻地や遠い離れ島の村々に至るまでの全国の小中学校や分校から慶祝行事代表が選抜されて平壌に招かれるという驚異の出来事はこのようにして始まった。

特別列車や旅客機、バスに揺られて、代表たちは平

壌へ向かった。彼らが与えられた、金正恩委員長の慈しみ深い影像入りの代表証は、金日成・金正日朝鮮の新しい世代を無上に愛し、押し立てる朝鮮労働党と国の次世代に対する崇高な愛の精華であり、少年団代表に対する信任の最大の表示であった。

委員長は朝鮮少年団創立66周年慶祝朝鮮少年団全国連合団体大会にも臨席して、彼ら少年たちを、愛する全国の少年団員たちと深い情をこめて呼び、わが党と共和国にとって、愛する少年団員たちは億万金の金銀宝貨にも代え難い貴重な宝であり、希望と未来のすべてだと述べた。

祖国の未来への確信、少年団員たちへの大いなる信任と期待が歴々と脈打つ委員長の演説は、全国すべての少年と人民を無限に感動させた。

委員長は子どもたちと一緒に音楽会を観覧し、記念撮影も行い、温情こもる贈り物もした。

世界の耳目を集めた朝鮮少年団創立66周年慶祝行事は、金正恩委員長の周りに全国の人民や少年団員たちが骨肉の情で固く結びついた一心団結と強盛繁栄する未来の真の姿を誇示した大祝典であった。

朝鮮少年団創立66周年慶祝朝鮮少年団全国連合団体大会で
演説を行う金正恩委員長（2012年6月）

われら幸せ歌う

わが国の子どもたちに対する金正恩委員長の熱い骨肉の情は、彼らのためとあらばいかなるものをも惜しまず、世に羨むことのない幸せをもたらそうと努めていることに表現されている。

金正恩委員長は次のように述べている。

「われわれは大元帥たちの熱い次世代への愛、未来愛を受け継いで、大元帥たちがあんなにも慈しみ愛した子どもたちを立派に育て、彼らにこの世のすべての幸福を余さずに抱かせなければなりません。祖国を背負って立つ未来の主人公である子どもたちのためとあれば惜しむべきことは何もありません」

2014年4月20日、竣工を間近にした松涛園（ソン　ドウォン）国際少年団野営所を視察した委員長は、この野営所は改築ではなく新築の建物のように見える、あたかも一幅の美々しい絵のような素晴らしさだ、昔の国王の宮殿もこの少年団野営所には及ばないだろうと、満足して言った。

「われら幸せ歌う！」は実に優れたスローガンだ、わたしはこのスローガンを見るだけで金日成同志と金正日同志の英姿が熱く偲ばれてならない、こう語

る言葉に幹部たちは、野営所を近代的に築き直すべく努力に努力を重ねた委員長の労苦をいまさらのように胸熱く顧みた。

まさにこの日を迎えるべく、国の子どもたちに世に羨むことのない幸せを抱かせようと人民軍の強力な建設部隊を送り、設計から施工に至る工程の全般を具体的に検討し指導した金正恩委員長。

限りない激情に包まれている彼らを見回して委員長は続けた。**「国の子どもたちや人民が世に羨むことなく暮らし、その幸せな笑い声、労働党万歳の声が高らかに鳴り響くようにしようというのがわが党の決心であり、意志です。スローガン『われら幸せ歌う！』を**

頭に浮かべると、骨の折れる困難な仕事も楽しい気分で推し進めていけます。われわれは今後ともとこしえに、この地で歌声『われら幸せ歌う』が鳴り響くようにしなければなりません」

その後委員長は野営所の隅々までくまなく見て歩き、不備な点があれば指摘し、是正方途を教えた。

2015年11月、改築なった万景台学生少年宮殿を視察し、世界にまたとない立派な宮殿の各所を見て回った委員長は、学生少年宮殿の内部は実に素晴らしい、子どもたちがとても喜ぶだろうと重ね重ね満足を表した。そして、万景台学生少年宮殿の劇場は専門芸術団さえ羨望するほど立派につくられた、国の王様が利用する劇場は当然こうあるべきだとしてこの上なく喜んだ。

長時間をかけて宮殿を見て歩き、やがて外へ出た委員長は、万景台学生少年宮殿のサークル活動に必要なことは何でも話すべきだ、課外教育用の設備はすべて具備すべきである、万景台学生少年宮殿に必要な設備はいずれ後日になっても必ず備えることになる以上、今のうちにぐずぐずせず具備することだ、われわれは子どもたちのためなら何事であれ惜しんではならず、彼らの明るい笑いを守らなければならない、われわれがいまのよう

な困難な時期に強く守り抜いた子どもたちの笑い声は、はるかな後の日に社会主義勝利の歌声となっていっそう高らかに鳴り響くであろう、自分はそのことを確信していると力強く語った。子どもたちを国の王様とみなし最上最大の慈愛を注ぐ委員長の崇高な次世代観により、万景台学生少年宮殿では歌声『われら幸せ歌う』が一段と高らかに鳴り響くようになった。

金正恩委員長が次世代に惜しみなく施す温情あふれる配慮は、全国の学校や学院、育児院や愛育院にも温かくこもり、新生児の宮殿である平壌産院にも、また至る所に造成された公園や遊戯場、動物園などにも宿っている。

子どもたちのためなら世界最良のもの、世界にまたとないものをというのが委員長の気高い次世代観であることからして、万景台少年団野営所や平壌児童百貨店がその様相を一新し、玉流（オンリュ）児童病院、平壌育児院と愛育院、元山育児院と愛育院、平壌中等学院と初等学院、自然博物館などが最上のレベルで建設された。

委員長は、建設中の玉流児童病院を視察した際、児童病院に設けることになる医療設備の輸入問題について報告を受け、ＣＴはあるのだろうか、ＭＲＩ設備はどうかなどと尋ねた。

평양아동백화점

今はまだＭＲＩ設備はない、その設備1台は価格が高すぎるので輸入計画に組み入れることができずにいると聞いて、すぐさま児童病院にはＭＲＩ設備を設けるべきだ、いくら高価でも児童病院にＭＲＩ設備がなくてはいけないと言った。

そして、児童病院は自分が決心して建設する子どもたちの総合的病院なのだから、価格はいくら高く付いてもＭＲＩ設備は必ず入れなければならない、国の子どもたちのためなのに何を惜しむことがあろう、児童病院用のＣＴおよびＭＲＩ設備はわたしが解決措置を講じようと言った。

この日委員長は、救急蘇生車はもとより児童病院の管理運営上必要な自動車を自分がまとめて解決するから、必要な設備やまだ見積もりの立っていない設備もあるだろうが、協議会を通して詳細な案を作成し、残らず提起するようにと語った。

金正恩委員長は父母のいない孤児たちにも世に羨むことのない幸せをと心を砕き、彼らが一点のかげりもなくすくすく育つよう温かい骨肉の情を注いでいる。

2014年2月3日、委員長は当時の平壌市愛育院と育児院を視察した。

テレビの画面だけでしか知らなかった委員長を迎え

た院児たちは、あたかも遠い旅先から帰った父親に会ったかのように喜んだ。

そんな院児たちが歌う歌を聞いて一切の心配事を忘れたかのようにほほえんでいた委員長はこう語った。

「院児たちの元気一杯な歌声を聞いていると、子どもたちの明るい顔にいささかのかげりもささないよう院児たちの面倒をよく見なければという思いを深くします」

続けて委員長は、院児たちが何よりも恋しがるのは父母の情だ、院児たちには父母の情が必要だ、そうした情を深く注ぐことで、子どもたちが親のいない悲しみを忘れ、常に明るい笑顔を持って暮らすようにすべきだ、今は院児たちが幼くて何も知らずにいるだろうが、今に大きくなれば、父母を持つ子どもたちを一番羨むことになろうし、院児たちが父母の情を知らずに育ったら、彼らは精神的に萎縮しないとも限らないと気遣わしげに語った。

ついで教育室に立ち寄っては室温はどの程度かを推しはかり、間食の保管倉庫ではあめ菓子が山と積まれているのを見てたいそう満足し、寝部屋はどんな風に温めているのか、電気はよく入っているのか、肉類や卵、魚類の供給はどう受け、調理はどうなされている

平壌育児院を訪れた金正恩委員長
（2014年2月）

のかなどを親にも勝る心情で尋ねた。

愛育院を辞して育児院を訪れた委員長は、授乳部屋の床にあぐらをかいて床の温度を推しはかり、それでも気が置けず床に敷いてある布団の中に手を入れて、すやすやと眠っている生後6カ月余の赤子の足をなでて見もした。

まことに産みの父や母に勝るとも劣らぬ慈しみに満ちた、この世でもっとも熱い骨肉の情が平壌市愛育院と育児院に満ち満ちたのであった。

同年6月1日の午後、委員長は党中央委員会の一関係幹部に電話を入れた。

「今日は国際児童デーだが、平壌愛育院ではみなどう過ごしているのでしょうか」

彼は委員長の指示で午前中平壌愛育院で院児たちの生活状況を確かめてきたばかりであった。

委員長から贈られた盛り沢山の食膳を前にした院児たちは、早朝から自分たちを祝うべく訪ねてきた市内各単位の幹部や近隣の住民たちと一緒に祝日を楽しく過ごしていたという。

彼は、しばらく見ぬうちに院児たちは丈がかなり高くなり、体格もよく、血色も明るくなっており、今また委員長同志の愛の贈り物を受け取ってとても喜んでいます、と報告した。

喜んだ委員長は今一度尋ねた。
「平壌愛育院では院児たちに昼食に何を用意してあげたのですか」
彼は、玉流館からは平壌冷麺が届けられ、当該区域の料理店その他のサービス網からも調理師たちがやってきていろんな料理を作り子どもたちを喜ばせたことについて得々として語った。
ところが委員長は心配そうに「子どもたちが冷麺を好むだろうか」と呟き、夕食のメニューはどうなっているのかと重ねて聞いた。
一瞬彼は戸惑った。
あまりにも豪勢な昼食に感嘆したあまり、夕食のことは考えもしなかったのである。
夕食についてまでは考え及びませんでした、すぐにも確かめて報告致しますという答えに、委員長は話題を変えて、平壌愛育院の院児と保母はそれぞれ何人かと尋ねた。
彼はこの質問にも正確に答えることができなかった。
委員長は院児と保母が各何人ほどになるだろうが、その正確な数を確かめて報告するようにと言った。
直ちに平壌愛育院の実態を確認した幹部は、我知らず驚いた。院児と保母の人員が委員長の言葉通りだっ

たからである。
　数時間後平壌愛育院を訪れた委員長は、虚弱児には空腹時に蜂蜜を与えると良いと語り、蜂蜜を食べさせる方法や栄養管理法についても教えた後、ふと誰にともなく言った。
　今日の昼食に冷麺を出したそうだが、子どもたちは一般に冷麺を好まないのだが、と。
　委員長は、愛育院がこの日豪勢極まる祝膳に恵まれたとはいえ、昼食に冷麺を出したことがどうにも心につかえ、夕食には院児たちが喜ぶはずの高栄養のキジ肉と果実ヨーグルトを準備して愛育院を自ら訪れたのである。
　委員長は卵の調理法についてもいろいろと教え、子どもたちに御飯ばかり食べさせず、適切な間食を与えることだ、ヨーグルトは食後に与えると良いだろうと話して聞かせた。
　幹部の驚きは大きかった。
　どうしてそれほどまで子どもたちのことに詳しいのだろうか。これはただ通り一遍の愛情ではない。親のいない孤児たちをわが肉親とみなしているがゆえに、母親の情をもって面倒を見ているのである。果たして自分はいつになったら委員長同志のあの崇高な熱い情の世界にひたれるのだろうか。……

意義深い国際児童デーを迎えてまたしても愛育院を訪れた委員長にまとわりつき、子どもたちは「お父さん！」「お父さん！」と叫んだ。

その時、委員長は、あっ、危い、転ぶよ、あわてずにねと優しく制しては、子どもたちの頬をなでもすれば、その歌を喜んで聞き、真っ先に拍手を送りもした。

祝日を迎える院児たちへのおみやげにキジ肉やヨーグルトも持って行き、ヨーグルトの容器の一つ一つにストローを差し入れては院児たちの手に持たせる委員長とだだをこねる院児たち。……

委員長は夕食に舌鼓を打つ子どもたちの姿を満ち足りた表情で眺め、別れを前にしては、子どもたちの笑い声が高いと全国が明るくなる、新築の愛育院でまた会おうね、と愛の約束も残した。

その崇高な志に支えられて、風致秀麗な大同江のほとりには子どもたちの幸福の揺籃、みなしごたちの宮殿が建てられた。

金正恩委員長は、2015年正月元旦、新築なった平壌育児院と愛育院を真っ先に訪れた。

全人民の最大の祝福を受けるべき委員長を迎えて感涙にむせぶ幹部たちに向かって委員長は、今日の新年の辞で全国のいとしい子どもたちにいっそう明

平壌愛育院を訪れた金正恩委員長
（2014年6月）

るい未来を約束し、祝福をしてみると平壌育児院と愛育院の院児たちにとても会いたかったとして、党が立派に建ててあげた平壌育児院と愛育院をいささかの手落ちもなく管理運営し、ここから『われら幸せ歌う』の歌声が全国に響き渡るようにしようとねんごろに言った。

委員長は新年を迎えて楽しく遊ぶ院児たちの姿を微笑をたたえて見守り、遊戯場以外にも洗面場や水遊び場、知能遊戯室など部屋の一つ一つを見て歩いた。

保母が引くオルガンに合わせて歌う院児たちの歌を聞いた委員長は、もう午睡の時間だろうに子どもたちを寝かせなくちゃね、午睡の時間を見計らってやってきたのだから、早く寝かせなくちゃと心配そうに言った。

院児たちがもっと歌うとせがむと、委員長はもういいから早く寝るよう指図しなさい、自分は院児たちが寝床で眠る姿も見たいのだと優しく促した。

毎日、繰り返している子どもたちの日課であり、それを今日一日違えたとしてもとりわけ問題はなかろうに、院児たちの発育と保育に僅かな支障もあってはと心配する委員長の親身な思いやりに包まれて、院児たちの日課生活は普通の日と同じように変

わりなく守られた。
委員長が平壌育児院と愛育院を出たのは、昼食時間がかなり過ぎてからであったが、委員長はそんなことは一向気にもかけず、終始にこにこし、喜びに溢れていた。
今日は実に気分がいい、院児たちがこのように立派な家で顔に一点のかげりもなく存分に歌も歌い、踊りも踊りながら正月を過ごしているのを見てどんなに嬉しいか分からない、今日、院児たちの明るい笑顔を見ると、重なる疲労が一挙に吹き飛んだ、正月元旦の今日を楽しく過ごした、一切の心配事が消失したかのようだとして、委員長は明るく笑った。
2016年7月のある日、平壌中等学院を訪れた金正恩委員長は、最近、党が院児たちを立派に育てることを重要な政策的課題として、育児院、愛育院、初等学院、中等学院の保育・教育条件と環境を一新したのは、われわれがこの3～4年間に成就した成果中の最大の成果だ、現在、全国の至る所に育児院、愛育院、初等学院、中等学院が雨後の竹の子のように立ち上がっているので、人々は今や親のいない子どもたちの世が到来したとしているそうだが、院児たちは親のいない子たちではない、院児たちはみなわた

しの子だ、わたしは大勢の子を持つ親になったと言って明るく笑った。

　委員長のこのような熱い骨肉の情により、院児たちは既に世に羨むことのない子、いちばん幸せな子たちになって楽しい生活を送っているのである。

平壌中等学院を訪れた金正恩委員長
（2016年7月）

大会場にて名付けられた新生児の名

朝鮮人民軍第1回航空兵大会の午前の会議が終わる頃。

幹部席から会場を見回していた金正恩委員長は、自分は先日、ある女性航空兵部隊を視察した際、女性航空兵の新生児の名付け親になろうと約束をしたのだが、約束を守れないでいる、実に申し訳ないと、かたわらの幹部に話すのであった。

（赤子の名付け親?!）

この言葉を伝え聞いた大会参加者はもちろんのこと、当の夫婦航空兵の驚きはたとえようもなく大きかった。

ひと月ほど前彼らの部隊を視察した際、委員長は、彼ら夫婦の間に赤子が生まれて間もないと聞いてたいそう喜び、新生児の名は自分がつけようと約束をしたのであった。

彼ら夫婦は大喜びしてその日を今か今かと待ちこがれながらも、毎日のように報道される委員長の現地指導ニュースに接するたびに、自分たちの欲ばかり考えていると反省し、それでももしやと思ってはわが子の名をまだ付けていなかったのである。ところが、驚いたことに、この盛大な航空兵大会の場で、委員長がその日の約

束を未だに果たせずにいると申し訳なさそうに話題にされたとは……

大会場は激情に揺れながらも、その時まで夫婦航空兵との約束を話題にした委員長が何を考えていたかについては誰一人として感知していなかった。

午前の会議が終わり、席を立った委員長は、ひと月前の約束を違えてはとして、その間国務に忙殺されて果たせなかったことをこの休憩時間によく考えて新生児の名をきっと付けることにしようと笑って言った。

午後、大会場に現れた委員長は、幹部たちの挨拶を受けるとすぐに新生児の名を話題に載せた。

「昼休みの時に夫婦航空兵の子の名をいろいろと考えてみましたが、名に道（ド）という字を入れたらどうでしょうか」

一同はその文字の意味を噛みしめて賛意を表した。一幹部が白紙に「道」と書いたのを見て委員長は言った。

「じゃ、その子の名に道の字を入れましょう。今一つの文字はどうすべきでしょうかね」

誰もよい案を出せずにいるのを見て、委員長は言った。

「今一つの文字は忠にしましょう。李忠道（リチュンド）。どうですかね」

朝鮮人民軍第1回航空兵大会に出席した
金正恩委員長（2014年4月）

一同は「李忠道」「忠道」と口々に唱えてみては名前が本当によいと賛同した。

幹部席に着いた委員長はかたわらの幹部に、夫婦航空兵の子の名を本大会場で発表すれば良いでしょうと言った。

激情の瞬間はこうして訪れたのである。

最初委員長は、幹部席にいる航空部隊の指揮官から、夫婦航空兵の新生児は玉流児童病院に預けられたままであり、両親は本大会に参加している、新生児の名はまだ付けられていないという報告を改めて受けていたのである。委員長はこう言い続けた。

その子の名がまだ付けられていないということなら早速付けてあげましょう、その子が将来航空兵になるかどうかは分からないが、航空兵となって祖国の空を守れば申し分なく、ほかの職務に就いても純潔な良心をもって忠誠を尽くし、透徹した愛国心を抱いて祖国の隆盛をめざし、一生を忠実に変わりなく生きよという意味をこめて、姓名を李忠道とすればどうだろう。……

割れんばかりの拍手喝采が大会場を揺さぶった。

感涙にむせぶ女性航空兵に、名前が気に入るかねと再び尋ねた委員長は、幹部壇に駆け上がった夫婦を胸に温かく抱きしめた。

拍手はいっそう大きく鳴り響いた。

それは、金正恩航空隊の剛勇な飛行士に育ち行くであろう新生児への祝福のこだまであり、同時に金正恩委員長の慈愛に衷情と偉勲をもって報いようという全航空兵の忠誠のほとばしりであった。

挨拶の言葉を伝えるべく

2014年12月某日、金正恩委員長は朝鮮人民軍第2回軍人家族熱誠者大会参加者たちとともに朝鮮人民軍第2期第5回軍人家族芸術サークル競演に当選した軍部隊の軍人家族芸術サークル総合公演を観覧した。

大会参加者たちは委員長の歴史的な書簡『**軍人家族たちは銃を手にした夫たちの頼もしい副射手になろう**』を聴取していた。

軍人家族たちはこれまで最高司令官を少なからず支援してくれた、党に限りなく忠実な軍人家族の大部隊を擁していることを大きな誇りとしている、自身の胸中の最初の位置には、常に銃を手にした軍人とともにわが軍人家族がいる、というこの上なく大きな評価と信頼のこもる委員長の書簡に接して、彼女たちは感激の涙を流した。

ところがその感激が冷めやらぬうちに委員長は、彼女たちと一緒に記念撮影をし、今日はまた彼女たちを招

き、軍人家族芸術サークル総合公演の観覧をともにしたのであった。
　軍人家族芸術サークル員たちは、金日成主席と金正日総書記、それに金正恩委員長への極みない慕情と敬慕の念を胸にこめて、委員長が継承していく革命指導に心から従っていく軍人家族の高潔な思想的・精神的世界を格調高く謳いあげた。
　公演が終わると委員長は、出演者や観覧者たちの歓呼に答礼し、公演の成果をたたえた。委員長が席から歩みを移すや大会全参加者の熱狂的な「万歳！」の歓呼は劇場を激しく揺さぶった。
　ところが劇場を後にするのだと思った委員長が大股で舞台に向かったのである。
　一瞬歓呼のどよめきは水を打ったように静まり返った。
　続いて委員長の親しみに満ちた声が場内に流れた。
　委員長が演説を始めたのである。
　今日、写真の撮影場で是非とも会いたかった愛する戦友の妻や母親たちである同志のみなさんの熱烈な歓呼を受けてわたしは、わが党に固い信頼を寄せて慕い従う同志たちの美しい気持ちに感動し、ひいては同志たちの並々ならぬ革命的熱意、革命的楽天性を身近に感じたその衝撃があまりにも大きく、きっと一言挨拶を述べたいと思い、ここに立ちました。……

朝鮮人民軍第2回軍人家族熱誠者大会の
参加者たちの前で演説を行う
金正恩委員長（2014年12月）

大会参加者たちの頬は熱い涙に濡れていた。

大会参加者たちへの書簡を通して表明されたように、自分たちに身に余る高い評価と信頼を既に寄せていたにもかかわらず、またしてもこのように深い情を寄せる委員長。

——そのように剛毅でありながらも心優しくて信頼に足るこれら同志たちこそほかならぬわたしの愛する戦友の妻、偉大な朝鮮民族の将来を背負って立つわが次世代たちの思いやりの深い母親、銃を取った夫と同じ一つの塹壕でわれわれの革命を死守する頼もしい革命の副射手、わが革命の永遠に変わらぬ炊事兵であると思うと、先軍革命偉業の勝利は確定的だという確信はいっそう固まった。

——同志たちの眼光から無言の期待の声を聞き、同志たちの信頼と期待を片時も忘れず同志たちの愛する夫や息子たちが握りしめている銃、われわれの革命的兵力を、最高司令官として永遠の勝利一路へと揺るぎなく導かなくてはという決心をいっそう強く抱くようになった。

——同志たちのように強靭な、偉大な女性革命大軍を有していることは、わが党と祖国の大きな誇りである。

——誰かに見られようと見られまいと陰日向なく、夫の世話を焼き、祖国の隆盛に向けて同志たち

が流す純潔な良心の汗は、革命の血のしずくと同様わが革命の脈動に力を与え、輝かしい未来の到来を早めている。

——雨にもめげず雪にもめげず一意わが党のみに固い信頼を寄せて慕い、支持する同志たちに今一度熱烈な感謝の挨拶を送る。

——この世の何物とも変えようのないわが戦友、同志たちの夫や子女たちであるわが人民軍将兵の生活を、わが党の娘、わが党の嫁である同志たちに全的に預ける。

………

場内は涙のるつぼと化した。

実際、銃を手にした夫や子女、兵士たちのためとあらば、ためらいなく自己のすべてを捧げながらもそれを当然のこととし、彼らの感謝を受けると顔を赤らめる軍人家族たちである。

とはいえその日の大会参加者たちは、これまで経験したことのない崇高な感情に包まれていた。

彼女たちは生みの母の情にもまがうやさしさ、いやそれよりはるかに濃い情愛が自分たちの全身にしみ込んでくるのを感じていた。

あちらこちらで嗚咽が止むことなく続く中、最後に委員長は、みなさんが元気で睦まじく過ごし、常に夫や子たちの力になってくれるようお願いします、と

言って演説を結んだ。
再び湧き上がる熱烈な「万歳！」の声、ただただ胸が一杯になって涙に暮れている軍人家族たちもいた。
この感動的なシーンは大会参加者ばかりでなく、全国の軍人家族、人民の胸中に永遠に消えることのない今一つの骨肉の情あふれる画幅として世に残された。

「ご苦労さんです」

金正恩委員長は2014年11月、とある水産事業所を現地指導した。
事業所の構内一杯に魚臭がただよっているとして委員長は、水揚げ場に魚が滝のように流れ落ちる模様を楽しげに眺め、大漁旗をなびかせて埠頭に横付けになっている漁船のデッキに上がり、船倉にぎっしり積まれた魚類を見下ろしては、実に気分が良い、この1年間の疲労がいっぺんに消えてしまったと満足して言った。
委員長は露天の魚類加工場で従業員やその家族たちが魚類の選別作業を行っている様子を眺めた。
「どうです。家族たちまで党の水産政策を貫くべくあんなに奮い立っています。水産事業所従業員の家族たちが集団の利益を先に考えて自分たちの誠実な汗を

流しているのは殊勝なことです」
　随員たちを見回して水産事業所従業員の家族たちに身に余る評価を与えた委員長は、加工場に車座になって選別作業を行う彼女たちの側に近寄った。
　「ご苦労さんです」
　委員長は、親指を立てて見せながら、水産事業所の従業員と家族たちはみな透徹した党政策の貫徹者であり、愛国者である、これこそ社会主義の本態です、と力を込めて語った。
　委員長は文化会館の方へ歩みを移し、感激の涙を流す従業員たちをかえりみて、みんなに自分の挨拶を伝えてくれるようにと言った。
　大漁をもたらすべく努力している従業員家族たちへの真情は、その短くも素朴な言葉にもこのように脈打っていた。

人民に捧げる挨拶

　2013年1月1日早朝、常に明るい表情で全人民に新年の挨拶を送っていた金日成主席の姿そのままに、金正恩委員長は、最初の新年の辞を述べた。
　「………
　わたしは、党のまわりに固く団結し、祖国の富

強・繁栄のために献身的にたたかっている人民軍将兵と人民に新年の温かい挨拶を送り、全国すべての家庭に親和とより大きな幸福があるよう心から祈ります」

委員長の心温まる祝福の挨拶に接して、全国の人民は大きく感動した。

新年元旦の朝があけると、家族全員がテレビを前にして金正恩委員長の祝福の言葉を待ち、その祝福に包まれていっそう明るい前途洋々たる未来を描き見るのであった。

その日々の新年の辞を熱い思いで振り返ってみよう。

——2014年1月1日

「わたしは、昨年、祖国の防衛と社会主義建設のためのたたかいに貴い命を捧げた烈士たちに敬意を表するとともに、わが党に従って祖国繁栄の新時代を切り開いているすべての人民軍将兵と人民に新年の挨拶を送ります。

新年を迎えて、全国のすべての家庭により大きな幸せと喜びがあるよう祈ります」

——2015年1月1日

「わたしは、革命的信念と愛国心を持って祖国の尊厳と隆盛繁栄のために献身している人民軍将兵と人民に新年の挨拶を送るとともに、全国の家庭にあたたかい情があふれ、かわいいわれらの子供たちにより明る

い未来があるよう祈ります」

「希望に満ちた2015年を迎え、全国すべての家庭に幸せがあることを祈ります」

——2016年1月1日

「わたしは、永遠に党とチュチェの道を歩むという確固たる信念を持ち、社会主義祖国の富強・繁栄のために献身しているすべての人民軍将兵と人民に新年の挨拶を送り、あわせてすべての家庭にむつまじさと情愛があふれ、愛する子供たちの楽しげな笑い声がより高く響き渡ることを念じます」

「希望に満ちた新年を迎えて全国の全人民の健康と幸福を祈ります」

——2017年1月1日

「わたしは偉大な人民がもたらした誇るべき奇跡の偉大な1年を誇り高く振り返る意義深いこの場を借りて、党と思想も志も意志もともにして喜びも苦痛もともに分かち合い、生死をともにし、歴史に類を見ない幾多の試練を笑顔で乗り越えてきたすべての朝鮮人民に最も厳かな心を込めて温かい挨拶を送るとともに、希望に満ちた新年の栄光と祝福を送ります」

新しい年を迎えて送られた新年の辞ばかりではない。

朝鮮少年団創立66周年慶祝朝鮮少年団全国連合団体大会や第4回全国老兵大会、朝鮮労働党創立70周年慶祝閲兵式および平壌市民パレードの際に行った演説など、

どの演説にも真心のこもる言葉、人民への温かい挨拶の言葉が述べられている。

「わたしは、社会主義強盛国家の朝が訪れる希望に満ちた時期に、わが党と人民の大きな関心と祝福の中、6・6節を迎える代表のみなさんと、全国の少年団員を熱烈に祝います。

また、みなさんを立派に育てるために力を尽くしている先生方と全国の学父母にも温かい挨拶を送ります」

「尊敬する老兵の同志のみなさん！

全国の祖国解放戦争参戦者と戦時功労者のみなさん！

尊敬する同志たちの健康・長寿と家庭の幸福を祈ります」

「意義深いこの場を借りて、青年たちを真珠や玉石のように大事にし、押し立ててくれた金正日同志の心まで合わせて、発電所の建設に参加して大きな勤労の偉勲を立てた白頭山英雄青年突撃隊員と人民軍軍人、すべての建設者に朝鮮労働党の名であつい感謝と戦闘的な挨拶を送ります」

「革命の厳しい各年代に、わが党に無限の力と勇気を与え、強靭な意志によって歴史の険しい風波を切り抜け、共に泣き、共に笑い、常に党と運命を共にしてくれた愛する全人民に、党創立70周年を迎えて、朝鮮労働党を代表して腰をかがめて熱い感謝の挨拶を送ります」

党の戦闘的アピールを体し、決死の取り組みをもってセメントの生産において最高生産年度のレベルを突破した祥原（サンウォン）セメント連合企業所のすべての労働者、技術者、幹部たちに送った祝賀電文、国際競技で優勝したスポーツマンたちに送った祝賀電文など、委員長から人民に送られた数々の祝賀文や感謝文にも人民への熱い情が満ちている。

偉大な人民に捧げる委員長の挨拶、まさにこれこそは指導者と人民が一つの意と情をもって結ばれた渾然一体の大花園の中でのみ見られる感動的な挨拶である。

目が開いたいきさつ

金正恩委員長は次のように述べている。

「指揮官と兵士はみな同じ最高司令官の貴重な戦友です」

委員長が戦闘任務の遂行中犠牲になった駆潜艦233号の海軍勇士たちの墓参を行った時のこと。

勇士たち一人一人の石写真に目を凝らしては、写真が良くできている、今すぐにも起き上がり、喜んで迎えてくれそうだとしてこみ上げる涙をこらえていた委員長は、ある一勇士の写真の前で歩みを止め

てそれに見入った。

うむ、恩哲（ウンチョル）がここにいる。

「わたしどもが呈上した本来の写真は目をつぶっていたものでしたが、これは最高司令官同志が親しく目を開いてくださった恩哲勇士の写真です」

一幹部の説明に委員長は、そう、君たちから送られた写真は目をつぶったものだった、として当時のことを振り返った。

そのしばらく前、委員長は犠牲になった海兵たちの墓に石写真を付けることだとして、彼らの写真を送って寄こすようにとの課題を与えた。

送られた写真に目を通した委員長は、いくら小さい写真であっても良いから本来の写真を違えずに送り直すようにと今一度指示した。なんとしても本来の彼らの姿を墓に付ければという心情からであった。

部隊の指揮官たちは困り果てた。各人の写真の規格がそれぞれ異なり、画像の質も良くないのが問題でもあるが、それよりももどかしかったのは、やっと見付けた一軍人の写真は目を閉じたものしかないことである。江原（カンウォン）道安辺（アンビョン）郡が故郷の李恩哲は軍事服務の日々をほとんど毎日艦船内で過ごしていたので、部隊で撮った写真はなかった。

仕方なく目を閉じたままの写真を届けるほかなかった。

悲痛な思いで犠牲者たちの写真を一枚一枚手に取って見つめていた委員長は、目を閉じている軍人の写真を凝視した。まともな写真1枚残せずに逝った19歳の勇士。……　委員長の胸はつぶれんばかりに痛んだ。

じっと写真に目を凝らして深い思いに沈んでいた委員長は一幹部を呼び、目を閉じている軍人の写真を見せて、去年この部隊を視察した際に取った記念写真があるはずだからその中にいるはずの彼を探してみるようにと指示した。

委員長と一緒に撮ったその記念写真には、委員長が革命指導の途上で永遠の同志関係、戦友関係を結んだ愛する兵士たちの姿が本来のままに写されてあった。

部隊の指揮官たちがそれほど苦労しても探し出せなかった一軍人の目の開いている写真は、このようにして世に知られることになった。

ところで勇士たちへの委員長の骨肉の情はこれで終わったのではなかった。

部隊から送られてきた、規格のまちまちな質の劣る勇士たちの写真が気にかかり、委員長はカラー写真にして同一規格に大きく拡大する措置を取り、貴重な時間を割いて写真の一枚一枚を確認した。

記念写真に映っていた李恩哲勇士の姿は大変小さか

戦闘任務の遂行中に死亡した
朝鮮人民軍海軍勇士たちの墓を見て回る
金正恩委員長（2013年11月）

ったが、委員長は、両親さえすぐには見分け難いその小さな写真の拡大に少なからぬ恩情を傾けたものである。その間李恩哲勇士の写真に目を凝らした回数だけでも6回におよび、写真の中で目を閉じていた勇士は、委員長の細やかな愛情のおかげで生前の姿通り目をぱっちりと開くことになったのである。

数日もの間夜を明かして勇士たちの写真の完成を指導した後は、自ら彼らの写真を一枚一枚額ぶちに納めて、党マークの入った赤い布に包み、それらを勇士たちの故郷へ送るよう手配したのも金正恩委員長であった。

委員長は李恩哲勇士の石写真を見つめながら過ぎし日々のことが思い出されてか、しばらくの間その場から離れようとしなかった。

実に石写真の一枚一枚にはこのように熱い思い出が宿されていたのである。

本人の故郷に党中央委員会の幹部を送り、写真を取り寄せて作り直した写真もそこにはあった。

人民軍の指揮官のみならず兵士たちの一人一人を自身の心からの革命の同志、戦友とみなして骨肉に勝る情と熱を注ぐ委員長の健在により、このように海軍の勇士たちは世にも優れた堂々たる軍人の姿で祖国の歴史とともに永生しているのである。

彼らは今日も、自分たちの体臭がしみた軍港と、生

命を賭して守った祖国の海を毎日眺めながら、委員長の愛に包まれて永遠の軍事服務の道を歩んでいる。

驚天動地の新しい歴史

2010年夏、新義州（シンイジュ）—義州（イジュ）地区が大洪水に見舞われた。

この地区は鴨緑江（アムロク）の水位より低いせいで古くからしばしば水害を被っていた。そこで金日成主席はつとにいずれ道都を南新義州に移すことにし、それまでは鴨緑江に二重の保護用堤防を造成して大水の被害を防ぐようにとの措置を講じていたものである。

ところが、鴨緑江の二重堤防工事は計画のずさんさもあって欠陥を免れず、その年新義州—義州地区はまたしても浸水の危険にさらされたのであった。

報告を受けた金正恩委員長は、即刻人民軍部隊を投入して大水の被害を防止するよう命じた。

こうして新義州—義州地区水害防止人民軍指揮チームが組まれ、ヘリコプターや警備艇の出動も行われた。

委員長は、道の責任幹部に電話を入れて水豊湖（スプン）の水位がどれほどに達しているかを確かめ、人民軍部隊が新義州—義州地区の水害の防止に出動したが、水害防止の対策はどのように立てられ、進行しているかを具体的に聴取したうえで、今金正日総書記は

新義州—義州地区の水害防止問題について非常に憂慮しておられる、人民軍を投入することで人民の生命・財産を救い、ひいては鴨緑江の堤防が永遠に決壊することのないようその工事まで一気にやり遂げるべきだと語った。

人民軍の諸区分隊は、ヘリコプターや水陸両用車なども投入して犠牲的に水害の防止に取り組み、大水を前にして生死の岐路に立たされていた大勢の住民を無事に救い出した。他方、堤防工事も激戦を彷彿させた。部隊長も政治委員も兵士たちの中に混じって土砂降りの暴雨にもめげず麻袋を担いで走りに走った。昼夜を分かたぬ軍人たちの決戦を目前にした市民たちは、ただ感動するばかりであった。

堤防工事が完了すると、道内の住民たちは心をこめて用意した食べ物を盛り沢山に揃えて軍人たちを招待した。

ところが朝早くから待っていた兵士たちは姿を見せず、意外にも部隊長と政治委員の2人だけがやって来て、今朝部隊は全員引き揚げた、自分たちはこのことを知らせに来たと言うのである。

住民の代表たちは唖然とし、立腹した。

一体こんなことがあっても良いものか。人々は兵士たちの到着を今か今かと待っている。折角の人民の誠意を絶対に無視すべきではなかった。絶対にそんな風

にすべきではない。……

部隊長は説明した。これは金正恩将軍の命令です、と。

前日の夕べ金正恩委員長は、人民の誠意はありがたいが、わが軍は人民にいささかの迷惑も掛けてはならない、即時撤収せよと命令したのである。

そのことを伝え聞いた市民たちは、金正恩委員長のいるはるかな平壌の空を仰いで熱い涙を流した。

2012年7月末、不意の豪雨に襲われて、价川(ケチョン)地区炭鉱連合企業所朝陽(チョヤン)炭鉱地区は甚大な被害を受けた。

豪雨による土砂崩れに遭って朝陽駅はひどく破壊された。駅構内の機関車と貨車、設備などが無残に埋没あるいは転覆し、貯炭場は大山の崩れに覆われたかのような有様であった。

殊に价川—朝陽間鉄道250メートルの区間は、およそ3メートルの塊石・泥土の層に埋まり、数百メートル区間のレールが飴のようにひん曲がってしまい、列車の運行は完全な麻痺状態に陥ってしまった。復旧はいくら早くても3カ月以上は要するという見通しであった。

実状報告を受けた金正恩委員長は、8月6日夜、人民軍の一旅団に价川—朝陽間の鉄道を復旧し、土砂の山をきれいに処理せよという最高司令官命令第0012号を下した。

命令書には旅団長の姓名が明記されてあった。

「旅団戦闘警報！」

旅団は即時機動を開始し、翌8月7日早暁現地に到着するや、軍人たちはすぐさま作業に突入した。

土砂崩れで一切の交通が遮断されている被害地では、道路の復旧から先に進めざるを得なかった。作業に突入して1時間後には10キロメートルを越える区間の環状線機動路が開通してダンプカーや重機械が支障なく行き来し、作業は電撃的に進行した。

アジプロ活動が活発に行われる中、兵士たちは膝まで浸かる泥中ももののともせず、昼夜を分かたぬ麻袋による運搬作業を繰り広げた。人民軍の有する強力な重装備を駆使して、作業の開始初日早くも土砂に埋もれていた駅構内および10数キロメートル区間の鉄道がきれいに整理された。

こうして36時間後には石炭を載せた最初の貨物列車が発車し、僅か3日にして数万立方メートルもの土砂も完全に処理されて駅構内の鉄道は残らず立ち直り、盛土と路盤の整理も完了した。

その間、原状は単に回復されたのではなく、鉄道路盤は水害以前の状態よりも堅固に固められ、決壊した堤防もいかなる大水にもびくともしない永久構造物に作り変えられ、駅舎その他の公共建造物も完全に一新され、また、多くの住宅が補修ないし新築され、むごく破壊さ

れた幼稚園や託児所、学校もきれいに改修されたのである。これらは、金正恩委員長の命令を即時受理、即時実行する決死貫徹の革命的気風が軍内に確立していることを示すものである。

このように驚異的な功績を上げながらも兵士たちは、「2012．8．11　人民のために」という素朴な文字を新構築の盛土の壁に刻んだだけで朝陽の地を去ったのである。

2015年8月22日、東北辺の都市羅先(ラソン)市は思いもよらぬ急激な豪雨に襲われた。

僅か数時間にして300ミリを超える集中豪雨はたちまちのうちに市内のすべてを押し流した。処々でアパートが二つに割れ、ひと抱えを越える立ち木が根こそぎになって濁流に流され、あちこちの家々が一瞬にして目の前から消え、道路は泥土に埋もれた。

数千世帯もの住宅が破壊され、鉄道路盤が沈下し、通信網や電力網がずたずたになり、飲料水の供給が断たれた。先鋒(ソンボン)地区では、谷間から流れ込む大水によって堤が破れ、市内の公共建造物や数千世帯の住宅が水に浸かりあるいは押し流された。

被害のあまりものひどさに、人々はただ唖然とするばかりであった。

それに当時は、敵の無謀を極めた戦争挑発策動を前にして、朝鮮人民軍の前線大連合部隊は戦時状態に入

り、前線地帯では準戦時状態が宣言されて、いつなんどき戦争が起きるか分からぬ超緊張状態が続いていた時で、罹災民たちはなすすべを知らず戦々恐々としていた。
　ところが、思いもよらぬ奇跡が起きたのである。
　羅先市の水害に関する報告を受けた金正恩委員長は、市が被害状況を随時確認して必要な対策を講ずる一方、内閣以下省・中央機関は有能な幹部たちを直ちに現地に送り、復興建設に必要な物資を緊急に送る対策を立てるようはからった。
　それでも安心がならず、羅先市党委員会の責任書記（当時）にじかに電話を入れて、被害を受けた住民たちの住宅を党創立70周年記念日以前にすべて建て直し、彼らが厳寒が到来する前に自宅で安らかな生活を送れるようにしなければならないと決然として命じた。
　委員長は、敵軍との鋭い政治的・軍事的対決戦を砲火をまじえず無血の大勝利へと導くかたわら、8月27日、党中央軍事委員会拡大会議を招集して羅先市の水害復興問題を重要議題として上程し、ここで数日前に発生した羅先市の水害状況を通報したうえで、人民軍が羅先市水害の復興建設を担当して党創立70周年記念日以前に完了せよとの朝鮮人民軍最高司令官命令を下し、羅先市水害復旧戦闘指揮司令部を組織した。

党中央軍事委員会拡大会議を指導する
金正恩委員長（2015年8月）

国家の最高重大事である国防上の戦略的問題を討議する党中央軍事委員会拡大会議において羅先市水害の復興建設を重要議題として上程した委員長の決断を知らされた人民軍将兵はこの上なく感動し、命令の決死貫徹に奮い立った。

戦闘命令を受けた各部隊は祖国の東北辺羅先市へ急行して、羅先市民救援の巨大な戦線を展開し、一日も早く復興建設を遂行して衷情の報告を行おうとの一念に燃えながら昼夜を分かたぬ突貫作業に突入した。

声をからした指揮官たちはホイッスルで作業を指揮し、兵士たちはわれわれの壁塗りの速度は金正恩最高司令官に届ける衷情の速度だとして、傷ついた手は包帯を巻いて休まずに働きもすれば、立ったままで食事を取りながら壁塗り作業を進めていった。

委員長は、被害の復興状況を常時確認し、セメントその他の建材を切らさずに供給するようはからった。

委員長は、9月中旬、800余キロメートルもの空路、海路、山道を経て羅先市におもむき、ここで被害の復興作業を現地指導した。そして、財宝の中でも最も貴重な財宝は人民の信頼である、われわれは人民の信頼を得ればそれ以上何も望むことはないという見地に徹し、滅私奉仕の精神を発揮して人民の信頼に応えるべきである、人民軍は住宅を建てることだけで満足し、撤収しようなどと考えるべきではない、住宅地域には区画を設け、住

羅先市水害復旧の状況を現地で確かめる
金正恩委員長(2015年9月)

宅間道路の普請もきちんと行って住民の生活に役立たせることだ、第2段階の工事では学校および幼稚園、託児所、診療所などの公共建造物を建てることにしようと指摘し、埃っぽい建設現場を隅々まで見て歩き、軍人建設者たちを激励した。

人民軍将兵はその後、委員長の命令貫徹にいっそう力強く取り組み、党中央の定めた期日を違えることなく最上のレベルで住宅の建設と周辺の整理を完了し、羅先市を仙境の都邑に一新した。

羅先市の被害地域が社会主義仙境として立派に建設されたという報告を受けた委員長は、10月7日、再び羅先市を視察した。

先鋒地区白鶴(ペクハク)洞にて、羅先市水害復興作業の完了報告を受けた委員長は、復興なった住宅を先に見ないではどうにも気が置けずまたやってきた、といって建設の完了および新居入りの準備状況をいちいち確かめた。そして、軍人建設者たちが郷里の我が家、故郷のわが村を新たに作り直す意気込みで水害の復興を立派にやり終えた、この取り組みは人民に服務するわが軍の思想精神的・道徳的風貌を一段と力強く誇示する過程であった、今残っていることは新居入りであるとし、軍人たちは人民の引越しを助けるなど復興作業の後始末をきちんと行ってから帰隊するようにと命じた。

金正恩委員長の気高い恩情に守られて羅先市は酷薄

羅先市先鋒地区白鶴洞を訪れた
金正恩委員長(2015年10月)

な水害の痕跡を完全になくし、一幅の絵のような美しい文化都市、仙境としてその様相を一新した。
被害のあまりものひどさに驚き、市が元通りに立ち直るのには何年かかるか分からないとして、急いで帰国してしまったある外国人企業家は、その後夢のような現実を目の当たりにして痛く興奮し、その心情をこう語った。
「朝鮮の軍隊は並大抵の軍隊ではないと言われているが、今日わたしはこの目でじかにそのことを確かめた。災害地域に軍隊の投入がなされるのは普通に見られる現象だが、朝鮮人民軍のようにものすごいスピードで驚天動地の成果をあげるのは類例がない。世界にこのような軍隊がまたとあろうか」
2016年、咸鏡北道北部一帯を襲った大水害の復興は、ある一地域における突貫作業ではなく、まるまる一個の戦線で展開された人民のための戦争、銃砲声は鳴らなかったが、全国の軍部隊と人民の総動員、国家の物的・技術的潜在力の総投入によって強行された熾烈な建設大激戦であった。
当時の国内の状況を振り返ってみると、敵対勢力の言語に絶する誹謗中傷と封鎖策動が続く中、朝鮮労働党第7回大会の決定を貫徹すべく社会主義強国建設の壮大な目標に向けて第一歩を踏み出した人民が、一日一日を10日、100日に相当する猛烈なスピードで経済建設を進

めており、なかんずく平壌市の黎明(リョミョン)通り建設場では天空をついて70階建ての超高層アパートをはじめとする住宅が競って立ち上がり、その完成が目前に迫って人々を喜ばせていた。

こんな時に思いもよらぬ自然の大災害がまたしても起きたのである。

8月29日、不意に国の北部地域を強襲した豪雨は、丸2日間瞬時も休まずに降り続き、たちまちのうちに大河豆満江(トゥマンガン)が氾濫した。谷という谷の水が黄色く渦巻き、次々に土砂の崩れ落ちる轟音が打ち続く中、天地を覆い尽くさんばかりの濁流に山腹の岩石が掘り起こされてがらがら火花を発してぶつかり合い、転がり落ちる山崩れ。……

国の解放後における気象観測史上初めて経験した朝鮮北部地区6市・郡の大水害は、形容しがたい災難と苦痛を国にもたらした。

中でも被害の大きかった茂山(ムサン)郡は文字通りの廃墟と化し、一つの大激戦が展開された地帯であってもこんなにまでひどい有様を呈しはしないであろう。

大水でほとんどの住宅が跡形もなく消え失せ、公共建造物や鉄道、道路、橋梁、それに農耕地まで余さず押し流された。

電力・通信網がずたずたに切断されて、被害状況を知らせることも、救援を求めることもできない有様だった。

喜んだのは敵対勢力であった。彼らは今回の被害は羅先市のそれとは段違いに大きい最悪の災害だから早急な復旧は不可能だ、しかも黎明通りの建設に国力を集中している北朝鮮が心理的なショックに陥っていることは間違いないと騒ぎ立てた。

しかし、そうした詭弁やおろかな妄想はたちまちにして粉砕された。

不慮の大災害に見舞われて通信が不能になり、当地帯にわが子を持つ両親たちさえこの出来事を知らずにいた時、彼らが遭遇した災難に胸を痛め、その一日も早い救済対策を講じていたのは金正恩委員長であった。

国の山間僻地のただ一軒の農家の運命にまで心を致す、人民の子である慈愛に満ちた委員長の声は党中央委員会の執務室の窓辺からあいついで聞こえていた。

「いったん水害を被ったからには、住宅の建設や河川の整理など水害の復興を即時手落ちなく進めなければなりません。今はまず住宅をなくして露天に投げ出された罹災民たちの生活を安定させる対策を講じなければなりません」

「北部水害の復興を11月までに完了しなければなりません」

「北部水害の復興を最短期間で終えるためには、軍

民共同作戦を綿密に進めなければなりません」
「人民経済のすべての部門、すべての単位が咸鏡北道北部水害の復興を200日戦闘の中心課題とし、そこに国力を総動員、総集中しなければなりません」
「全党、全軍、全民が総力を集中して水害の復興を至急に終えることで、軍民大団結、渾然一体の巨大な偉力を今一度世界に高らかに誇示しなければなりません」
翌日、朝鮮労働党の重大決定が世界に報じられた。
2016年9月11日付け『労働新聞』には、一心団結の巨大な偉力をもって咸鏡北道北部水害の復興において奇跡の勝利を収めようという、すべての党員と人民に告げるアピールが掲載された。
全国が一致して北部水害の復興に立ち上がった。
総力を咸鏡北道北部水害復興の勝利をめざして！
「すべてを戦争の勝利のために！」とのスローガンを掲げて戦勝を勝ち取ったあの厳しい年代の勝利者たちのように彼らは災害復興の地へ急行した。
黎明通りで70階建て超高層アパートを16時間ごとに一階ずつ建てていた兵士たちは、ここでも世人を驚嘆させる奇跡を生んでいった。
「人民を支援しよう！」のスローガンの下復興作業に力強く取り組み、人民のために貴い汗を流す人民軍将兵たち。彼らの作業場からは常に変わりなく次のよ

うな声が聞かれた。
「われわれは水と空気さえあればそれまでです」
金正恩委員長の最も愛してやまない人民にいささかの負担も掛けずに幸せな社会主義のよりどころを一日も早くもたらさなければと胸を燃やす兵士たち。
昼夜を分かたぬ熾烈な突貫工事は続き、遂に前代未聞の大災厄に襲われた祖国の北辺の広大な地域に社会主義の新しい都市、新しい農村が誇らしげにつくられた。
水害地域数万人の被災民は、いかなる吹雪や嵐にも微動だにしない堅固な住宅に新しい幸福のねぐらを定め、新築の学校や幼稚園、託児所では、学びの鐘の音、幸福な笑い声が朗々と響くようになった。
朝鮮労働党中央委員会は、2016年11月13日、不慮の大天災を勇敢に克服して新居入りを果たすことになった咸鏡北道北部水害地域の住民を熱烈に祝賀し、水害の復興に総決起、総邁進して豆満江の沿岸に社会主義のとりでを作り上げた勇敢無双の人民軍将兵、突撃隊員ならびに全国の人民に熱い感謝と戦闘的な挨拶を送った。
朝鮮労働党の偉大な愛の政治と、世にたぐいのない軍民大団結の偉力がもたらした天地開闢の奇跡であった。
咸鏡北道北部水害地域に1万1900余世帯分の住宅がわ

ずか60余日にして建設され、数十の新しい町、新しい村がつくられた。

会寧（ヘリョン）市、茂山郡、延社（ヨンサ）郡、穏城（オンソン）郡、慶源（キョンウォン）郡、慶興（キョンフン）郡が水害の痕跡をすっかり取り除き、社会主義の仙境都市、仙境農村に生まれ変わることで、労働党時代に今一つの驚天動地の激変が起きたのである。

むすび

　最近この地球上の西側で驚くべき出来事が報道されて人々の注目を引いた。
　西ヨーロッパのある探険家が南極大陸の人類未踏の地点に到着したニュースが流されたが、ここで人々を驚かせたのは、探険家が人類未踏の極地点に到達した事実の標識としてそこに立てた旗がなんと朝鮮民主主義人民共和国の国旗だということであった。
　この一見特異な事実に対して世界のメディアは、ヨーロッパの著名な探険家がどういうわけで南極大陸の探険に際して極東の一国朝鮮民主主義人民共和国の国旗を携えて行ったのかということに注目した。
　西側の某通信は、このことは朝鮮が地球を代表する国だと見る世界の民心を反映したものだと報じた。
　地球を代表する国——朝鮮！
　朝鮮を含むこの地球はほかならぬ人間、人類が生存する唯一の惑星である。人類がこの惑星上でいつまでも睦まじく幸せに暮らすためには、人間、人類を最高に重んじ、人民にすべてを従わせる思想がわが惑星を支配すべきだということが人類の絶対多数の主張である。
　金正恩委員長は次のように述べている。

「働く人民が永遠であるように、人民のために、人民とともにたたかうことに永遠の正義と勝利があります」

太陽を中心にして地球が公転していると主張したコペルニクスの地動説が真理として公認されるまでには実に長い歳月が流れた。

ところで、人民大衆を中心に置き、すべてのものが人民に服務しなければならないというチュチェの真理は、僅か数年にして世界の人民の心を強く捉えているのである。

今日、自主、平和、社会主義をめざしてたたかっている進歩的人類が朝鮮に賛嘆の目を向けているのは、金正恩委員長がチュチェの人民観、人民哲学が最高に具現された人民大衆中心の社会主義を実現すべく鋭意努めていることと無関係ではない。

指導者は自身を人民の子として人民に滅私奉仕し、人民は指導者を慈父とみなして忠誠を尽くす一心団結の国、人民の国こそがわが朝鮮である。

人 民 の 子

編　集 ： 卓成日
翻　訳 ： 金時習
発行所 ： 外国文出版社
発　行 ： チュチェ107(2018)年11月

ㄱ-188350100

E-mail:flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp